

大学番号：私033

[平成29年度設置]

計画の区分：学部の設置

認可

国際医療福祉大学 医学部 医学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 国際医療福祉大学  
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 成田キャンパス

職名・氏名 キョウムキカクフチョウ 教務企画部長 ヤナギ 柳 タツヤ 辰哉

電話番号 0476-20-7701

（夜間） 0476-20-7701

F A X 0476-20-7702

e-mail narita\_gakumu@iuhw.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科  
(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・大学新設の場合：「〇〇大学」  
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」  
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。



# 目次

## 医学部

＜医学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	16
4. 既設大学等の状況	17
5. 教員組織の状況	20
6. 留意事項等に対する履行状況等	62
7. その他全般的事項	84



# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 国際医療福祉大学

## (2) 大学名

国際医療福祉大学

## (3) 大学の位置

〒286-8686：千葉県成田市公津の杜4丁目3番  
(本部：324-8501 栃木県大田原市北金丸2600番1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成7年4月)		
学長	(オオトモ クニ) 大友 邦 (平成28年4月)		
学部長	(キタムラ キヨシ) 北村 聖 (平成29年4月)		
学科長等		(ヨシダ モトフミ) 吉田 素文 (平成29年4月)	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は、平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
医学部 医学科 学士(医学)	医学	6年	140人	0人	840人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	140 (0) [20]												1.00倍	
志願者数	(3478) [85]	(0) [0]												
受験者数	(3356) [83]	(0) [0]												
合格者数	(284) [21]	(0) [0]												
B 入学者数	(140) [20]	(0) [0]												
入学定員超過率 B/A	1.00													

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	140 [ 20 ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次			[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次					[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
4年次							[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
5年次									[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
6年次											[ ] ( )	[ ] ( )	
計	140 [ 20 ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	140 人	0 人	平成26年度	人	人		0.00 %
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
			平成29年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	人	平成29年度	人	人		%
合 計	140 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他



## 2 授業科目の概要

<医学部 医学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
総合 教育 科目	死生学	1/2/3年 1学期		1								兼 1	留学生に対する教育上の配慮により、英語を多用する授業に変更(29)
	医学史	1/2/3年 1学期		1		5	1					兼 2 兼 4	教育効果を考慮して、教員を追加(29) 担当 北村聖(教授) 平成26年11月 教員審査済 判定 可 担当 天野隆弘(教授) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当 森田林平(教授) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当 倉橋清泰(教授) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当 板野輝(教授) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当 林省吾(准教授) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 鹿嶋靖雄(兼任)
	芸術政策論	1/2/3年 1学期		1								兼 1	
	日本の近現代史	1/2/3年 1学期		1								兼 1	
	医療プロフェッショナリズム I (入門)	1年 通年	2			10	1 2						自己都合により担当科目の一部を変更。共同授業のため支援はない(29) 足立雅之(准教授)
	医療プロフェッショナリズム II (応用)	2年 1/2学期	1			8	1 2						自己都合により担当科目の一部を変更。共同授業のため支援はない(29) 足立雅之(准教授)
	医療プロフェッショナリズム III (発展)	3年 1学期	1			8	1 2						自己都合により担当科目の一部を変更。共同授業のため支援はない(29) 足立雅之(准教授)
	法と医療	1年 1学期	1									兼 1	
	社会保障と医療制度	1年 1学期	1									兼 2	
	英字新聞で読む社会学・政治学	1/2/3年 2学期 4学期			1	2						兼 1	教育効果を考慮して開講学期を変更(29)
	現代日本考 ~政治・経済・社会・文化を理解する道しるべ~	1/2/3年 1学期			1							兼 1	英語による授業 教育効果を考慮して科目を追加(29) 担当 木村伊重(兼任)
	国際機関論	1/2/3年 1学期		1								兼 2 兼 4	留学生に対する教育上の配慮により、英語を多用する授業に変更(29) より専門性を考慮し、教員を追加(29) 等々力博(兼任)
	持続可能な発展	1/2/3年 1学期		1								兼 1	
	異文化コミュニケーション	1/2/3年 1学期		1								兼 1	
	国際関係論	1/2/3年 1学期		1								兼 1	
	国際医療保健学 I (入門)	1年 2学期	1			5		4 6		2			英語による授業 自己都合により担任辞退。共同授業であり、担当も多く支援はない(29) Htar Htar Soe(講師) Nguyen Duy Phanz(講師)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	国際医療保健学Ⅱ（応用）	2年 1学期	1			4		4 5		1	英語による授業 自己都合により就任辞退。共同授業であり、担当も多く支障はない(29) Nguyen Duy Phong (講師)
	国際医療保健学Ⅲ（発展）	3年 1学期	1			3		4 5		1	英語による授業 自己都合により就任辞退。共同授業であり、担当も多く支障はない(29) Nguyen Duy Phong (講師)
	数学	1/2/3年 1学期			1						兼 1 留学生に対する教育上の配慮により、英語を多用する授業に変更(29)
	生物学	1/2/3年 1学期			1	1					
	化学	1/2/3年 1学期			1			1			兼 1 自己都合により就任辞退のため担当を変更(29) 変更前：清宮正徳 (兼任) 変更後： 担当 湯澤聡 (講師) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	物理学	1/2/3年 1学期			1						兼 1
	医療生物学	1年 1学期	1			1					
	医療化学	1年 1学期	1			1					
	医療物理学・医用工学	1年 1学期	1			1					
	統計学	1年 3学期	1								兼 1 英語と日本語による授業
	英語Ⅰ（入門）	1年 1学期	2			2	2	4 3		1	英語による授業 自己都合による就任辞退のため担当を変更(29) 変更前： Butterfield, Jeffrie Leigh (講師) 変更後： 担当 井之川達美 (講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 教育の充実のため、教員を追加(29) 担当 早坂裕介 (講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可
	英語Ⅱ（応用）	1年 通年	6			2	2	4 3		1	英語による授業 自己都合による就任辞退のため担当を変更(29) (29) 変更前： Butterfield, Jeffrie Leigh (講師) 変更後： 担当 井之川達美 (講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 教育の充実のため、教員を追加(29) 担当 早坂裕介 (講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可
英語コミュニケーションA（入門）	1/2年 通年			6	1	1	4 3			兼 3 英語による授業 自己都合による就任辞退のため担当を変更(29) 変更前： Butterfield, Jeffrie Leigh (講師) 変更後： 担当 井之川達美 (講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 教育の充実のため、教員を追加(29) 担当 早坂裕介 (講師) 平成28年1月 教員審査済 判定 可 Vivek Paul Pinto (兼任) Christopher Thompson Lilton (兼任) Buck Eric Carson (兼任)	
英語コミュニケーションB（実践）	1/2年 通年			6	1	1	4 3			兼 3 英語による授業 自己都合による就任辞退のため担当を変更(29) 変更前： Butterfield, Jeffrie Leigh (講師) 変更後： 担当 井之川達美 (講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可	

(次ページへつづく)

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置				備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
総合 教育 科目	(次ページからのつづき)											教育の充実のため、教員を追加(29) 担当：早坂裕介(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定：可 Vivek Paul Pinto(兼任) Christopher Thompson Litten(兼任) Buck Eric Carson(兼任) 自己都合による就任辞退のため担当を変更(29) 変更前：Bauer-Lars Frank Wilhelm Achim(兼任) 変更後：東風谷本一(兼任)
	ドイツ語入門(会話含む)	1年 1学期			1						兼 1	
	中国語入門(会話含む)	1年 1学期			1						兼 1	
	韓国語入門(会話含む)	1年 1学期			1						兼 1	
	フランス語入門(会話含む)	1年 1学期			1						兼 1	
	スペイン語入門(会話含む)	1年 1学期			1						兼 1	
	タイ語入門(会話含む)	1年 1学期			1						兼 1	
	ベトナム語入門(会話含む)	1年 1学期			1						兼 1	
	ビルマ語入門(会話含む)	1年 1学期			1						兼 1	
	ドイツ語応用(会話含む)	1年 2/3学期			1						兼 1	自己都合による就任辞退のため担当を変更(29) 変更前：Bauer-Lars Frank Wilhelm Achim(兼任) 変更後：東風谷本一(兼任)
	中国語応用(会話含む)	1年 2/3学期			1						兼 1	
	韓国語応用(会話含む)	1年 2/3学期			1						兼 1	
	フランス語応用(会話含む)	1年 2/3学期			1						兼 1	
	スペイン語応用(会話含む)	1年 2/3学期			1						兼 1	
	タイ語応用(会話含む)	1年 2/3学期			1						兼 1	
	ベトナム語応用(会話含む)	1年 2/3学期			1						兼 1	
	ビルマ語応用(会話含む)	1年 2/3学期			1						兼 1	自己都合による就任辞退のため担当を変更(29)(29) 変更前：岡野賢二(兼任) 変更後：大澤幸子(兼任)
	日本語 I-A(作文)	1年 1学期			1						兼 4 +	留学生用日本語科目 教員の負担軽減のため担当を変更(29) 変更前：茅野正雄(兼任) 変更後：稲田朋晃(兼任)、品川なぎさ(兼任)、山元一晃(兼任)、加藤林太郎(兼任)
	日本語 I-B(文法・語彙)	1年 1学期			1						兼 4 +	留学生用日本語科目 教員の負担軽減のため担当を変更(29) 変更前：茅野正雄(兼任) 変更後：稲田朋晃(兼任)、品川なぎさ(兼任)、山元一晃(兼任)、加藤林太郎(兼任)
日本語 II-A(作文)	1年 2/3学期			1						兼 4 +	留学生用日本語科目 教員の負担軽減のため担当を変更(29) 変更前：茅野正雄(兼任) 変更後：稲田朋晃(兼任)、品川なぎさ(兼任)、山元一晃(兼任)、加藤林太郎(兼任)	
日本語 II-B(文法・語彙)	1年 2/3学期			1						兼 4 +	留学生用日本語科目 教員の負担軽減と教育の充実のため担当を追加(29) 申請時：茅野正雄(兼任) 追加：品川なぎさ(兼任)、山元一晃(兼任)、加藤林太郎(兼任)	
日本語 II-C(発表討論)	1年 1学期			1						兼 3 +	留学生用日本語科目 教員の負担軽減のため担当を変更(29) 変更前：茅野正雄(兼任) 変更後：稲田朋晃(兼任)、品川なぎさ(兼任)、山元一晃(兼任)	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	日本語Ⅱ-D(専門日本語)	1年 1学期			1						兼 5 1	留学生用日本語科目 教員の負担軽減と教育の充実のための担当を追加(29) 申請時：茅野正雄(兼担) 追加：稲田朋晃(兼担)、品川なぎさ(兼担)、山元一晃(兼担)、加藤林太郎(兼担)
	日本語Ⅲ-A(作文)	1年 2/3学期			1						兼 3 4	留学生用日本語科目 教員の負担軽減と教育の充実のための担当を追加(29) 申請時：茅野正雄(兼担) 追加：稲田朋晃(兼担)、品川なぎさ(兼担)
	日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	1年 2/3学期			1						兼 3 4	留学生用日本語科目 教員の負担軽減と教育の充実のための担当を追加(29) 申請時：茅野正雄(兼担) 追加：稲田朋晃(兼担)、品川なぎさ(兼担)
	日本語Ⅲ-C(発表・討論)	1年 1学期			1						兼 3 4	留学生用日本語科目 教員の負担軽減と教育の充実のための担当を追加(29) 申請時：茅野正雄(兼担) 追加：稲田朋晃(兼担)、品川なぎさ(兼担)
	日本語Ⅲ-D(専門日本語)	1年 1学期			1						兼 5 1	留学生用日本語科目 教員の負担軽減と教育の充実のための担当を追加(29) 申請時：茅野正雄(兼担) 追加：稲田朋晃(兼担)、品川なぎさ(兼担)、山元一晃(兼担)、加藤林太郎(兼担)
	医療福祉専門漢字	1年 2/3学期			1						兼 4 1	留学生用日本語科目 教員の負担軽減と教育の充実のための担当を追加(29) 申請時：茅野正雄(兼担) 追加：稲田朋晃(兼担)、品川なぎさ(兼担)、加藤林太郎(兼担)
	医療福祉専門語彙	1年 2/3学期			1						兼 5 1	留学生用日本語科目 教員の負担軽減と教育の充実のための担当を追加(29) 申請時：茅野正雄(兼担) 追加：稲田朋晃(兼担)、品川なぎさ(兼担)、山元一晃(兼担)、加藤林太郎(兼担)
専門基礎科目	医学英語	2年 1/2学期	8			1	3	2 3	1			英語による授業 自己都合による兼任辞退、教員多数のため支持しない(29) Butterfield, Jeffrie Leigh(講師)
	医療入門・正常解剖演習	1年 2/3学期	1			3 4	3 2	1	1 2		兼 1	日本語と英語による授業 職位を変更(29) 担当：川岸久太郎 変更前：教授 変更後：准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可 自己都合による兼任辞退のため担当を変更(29) 変更前：菅田昭太(助教) 変更後： 担当：吉岡広隆(講師) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	医療面接・身体診察Ⅰ(入門)	1年 2/3学期	1			3	2 3		1			日本語と英語による授業 自己都合により担当科目の一部を変更、共同授業のため支持はない(29) 足立雅之(准教授)
	医療面接・身体診察Ⅱ(応用)	2年 1/2学期	1			3	2 3		1			日本語と英語による授業 自己都合により担当科目の一部を変更、共同授業のため支持はない(29) 足立雅之(准教授)
	基礎医学総論Ⅰ(生化学)	1年 2学期	3			1		1				英語による授業
	基礎医学総論Ⅱ(分子生物学)	1年 2学期	2			1	1		1			英語による授業
	基礎医学総論Ⅲ(免疫学)	1年 2学期	1			1						英語による授業
	基礎医学総論Ⅳ(生理学)	1年 2学期	2			2						英語による授業
	基礎医学総論Ⅴ(薬理学)	1年 2学期	2			1		1				英語による授業
	基礎医学総論Ⅵ(組織学)	1年 2学期	1			2						英語による授業

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	基礎医学総論Ⅶ(組織学演習)	1年 2学期	1			2 3	2 1	1	0 1		兼 1 英語による授業 職位を変更(29) 担当 川岸久太郎 変更前:教授 変更後:准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可 自己都合による就任辞退のため担当を変更(29) 変更前: 香田隆太(助教) 変更後: 担当 吉岡広隆(講師) 平成29年7月 教員審査予定
	基礎医学総論Ⅷ(病理学)	1年 2学期	1			5		2			英語による授業
	基礎医学総論Ⅸ(病理学演習)	1年 2学期	1			5		2			英語による授業
	発生・出産	1年 2学期	2			4					英語による授業
	器官別統合講義Ⅰ(循環器系)	1年 3学期	5			8	3 2	2 1			英語による授業 教育を充実させるため、教員を追加(29) 担当 市原智子(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 担当 岡部海蔵(教授) 平成29年度 教員審査提出予定
	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系)	1年 3学期	5			11	2 1	2			兼 1 職位を変更(29) 担当 川岸久太郎 変更前:教授 変更後:准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可 英語による授業 教育を充実させるため、教員を追加(29) 担当 奥村哲弥(教授) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 職位を変更(29) 担当 川岸久太郎 変更前:教授 変更後:准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	器官別統合講義Ⅲ(消化器系)	2年 1学期	5			9 10	4 3	7	1		英語による授業 職位を変更(29) 担当 川岸久太郎 変更前:教授 変更後:准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系)	2年 1学期	4			6 8	2 1				英語による授業 職位を変更(29) 担当 川岸久太郎 変更前:教授 変更後:准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可 教員の都合により、下記1名が退職(29) 竹田 秀(教授) 全泰和(准教授)との共同授業を単独での 授業とし、授業運営上は支障はない
	器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系)	2年 1学期	3			12 13	1	1			英語による授業 職位を変更(29) 担当 川岸久太郎 変更前:教授 変更後:准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	器官別統合講義Ⅵ(婦人科系(乳腺含む))	2年 1学期	4			7 8	1	1			英語による授業 職位を変更(29) 担当 川岸久太郎 変更前:教授 変更後:准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可
器官別統合講義Ⅶ(運動器・皮膚・膠原病)	2年 1学期	4			4 5	1				英語による授業 職位を変更(29) 担当 川岸久太郎 変更前:教授 変更後:准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	器官別統合講義Ⅶ(脳神経・精神系)	2年 2学期	6			7 0	2 +					英語による授業 職位を変更(29) 担当 川岸久太郎 変更前 教授 変更後 准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可 教員の都合により、下記1名が退職(29) 上野操昭(教授) 河島雅則(教授)との共同授業を単独での 授業とし、授業運営上は支障はない
	器官別統合講義Ⅷ(感覚器系)	2年 2学期	3			5	1	1				英語による授業
	器官別統合講義Ⅹ(血液系)	2年 2学期	3			3	1					英語による授業
	正常人体解剖実習	2年 3学期	3			2 0	2 +	1		+		兼 2 日本語と英語による授業 職位を変更(29) 担当 川岸久太郎 変更前 教授 変更後 准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可 自己都合による就任辞退のため担当を変更(29) 変更前 菅田隆太(助教) 変更後: 担当 吉岡広福(講師) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	関連職種連携ワーク	4年 1学期	1			1						兼 8
	関連職種連携実習	4年 1学期			1	2						自己都合による就任辞退のため担当を変更 (29) 変更前 橋井真里子(教授) 変更後: 担当 大和田倫季(教授) 平成31年度 教員審査提出予定 英語による授業
海外医療体験	1年 1学期			2	2				6			
専門科目	胎児・小児の成長と疾患(成育と臨床)	2年 2学期	4			4						英語による授業
	感染症	2年 2学期	3			3		1	1			英語による授業
	腫瘍と臨床(放射線治療・緩和)	2年 2学期	3			16		1				英語による授業
	救急と集中治療	2年 3学期	1			1	1	1				英語による授業
	麻酔	2年 3学期	1			4		1				英語による授業
	予防医学・行動科学	2年 3学期	1			5		2				英語による授業
	老年医学	2年 3学期	1			3						英語による授業
	社会医学Ⅰ(医療管理学)	3年 1学期	1			1						
	社会医学Ⅱ(衛生学・公衆衛生学)	3年 1学期	2			2						
	社会医学Ⅲ(法医学)	3年 1学期	1			1		1				
	社会医学Ⅳ(臨床疫学・EBM)	3年 1学期	1			3						
	社会医学Ⅴ(演習)	3年 1学期	2			4		1 2	3 2			教育を充実させるため、教員を追加(29) 担当 鈴木和子(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 自己都合により下記1名が就任辞退(29) Htar Htar Soe(講師)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由		教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	総合臨床医学	3年 1学期	11				38 37	2 4	5 4		1	兼 8 自己都合による就任時期の遅れ等により教員を 変更(29) 変更前：足立雅之(准教授) 変更後： 担当：瀧野浩利(教授) 平成29年度 教員審査予定 自己都合による就任辞退のため担当者を変更(29) 変更前：宮垣朝光(准教授) 変更後： 担当：森村壮志(講師) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 教育を充実させるため、教員を追加(29) 担当：市来智子(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 自己都合により担当科目の一部担当者を変更。共 同授業のため支援はない(29) 足立雅之(准教授) 教員の都合により、下記1名が退職(29) 上野俊昭(教授) 桂研一郎(教授)との共同授業を単独での 授業とし、授業運営上は支援はない 日本語と英語による授業 自己都合による就任辞退のため担当者を変更(29) 変更前：田邊裕貴(准教授) 変更後： 担当：村田一素(教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 変更前：馬飼慶(准教授) 変更後： 担当：吉岡大輔(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 変更前：長友祐司(准教授) 変更後： 担当：福田浩二(教授) 平成29年度 教員審査予定 変更前：桂方秋之(講師) 変更後： 担当：吉岡史雄(講師) 平成29年度 教員審査提出予定 変更前：内藤雄一郎(准教授) 変更後： 担当：鳥巣利英(准教授) 平成29年度 教員審査提出予定 変更前：蓮川和(助教) 変更後： 担当：市来智子(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 教育の充実のため、教員を追加(29) 担当：細谷幸治(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 担当：葛西良広(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 部位の変更(29) 井上翠 変更前：講師 変更後：准教授 平成28年11月 教員審査済 判定 可 自己都合により7名が退職。多数の教員が いるため支援はない(29) (教授3名、講師2名、助教2名)
	臨床診断入門	3年 2学期	14				22	2	2 1			
	症候と臨床推論(小グループ ケーススタディ演習)	3年 3学期	9				8	1 2				
	総括講義	6年 2学期	15				9 10	1				
	臨床実習 I (基礎)	4年 1学期	40				78 79	28 30	24	18 20		

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門科目	臨床実習Ⅱ (発展)	5年 1学期	15			78 79	27 29	24	18 20		兼 8	<p>日本語と英語による授業</p> <p>自己都合による取任辞退のため担当者を変更(29)</p> <p>変更前：田邊裕典(准教授)</p> <p>変更後： 担当 村田一孝(教授)</p> <p>平成29年1月 教員審査済 判定 可</p> <p>変更前：長友祐司(准教授)</p> <p>変更後： 担当 榎田浩二(教授)</p> <p>平成29年度 教員審査予定</p> <p>変更前：品詞隆(准教授)</p> <p>変更後： 担当 吉岡大輔(講師)</p> <p>平成29年1月 教員審査済 判定 可</p> <p>変更前：綾方敦之(講師)</p> <p>変更後： 担当 吉岡史希(講師)</p> <p>平成29年度 教員審査提出予定</p> <p>変更前：内藤雄一郎(准教授)</p> <p>変更後： 担当 島嶽利奈(准教授)</p> <p>平成29年度 教員審査提出予定</p> <p>変更前：瀬川知(助教)</p> <p>変更後： 担当 市来智子(講師)</p> <p>平成29年1月 教員審査済 判定 可</p> <p>教育の充実のため、教員を通知(29)</p> <p>担当 細谷幸治(講師)</p> <p>平成29年1月 教員審査済 判定 可</p> <p>担当 島西真広(助教)</p> <p>平成28年11月 教員審査済 判定 可</p> <p>職位の変更(29)</p> <p>井上享 変更前 講師 変更後 准教授</p> <p>平成28年11月 教員審査済 判定 可</p> <p>自己都合により7名が退職。多数の教員がいるため支援はない(29)</p> <p>(教授3名、講師2名、助教2名)</p> <p>日本語と英語による授業</p> <p>自己都合による取任辞退のため担当者を変更(29)</p> <p>変更前：市丸直樹(教授)</p> <p>変更後： 担当 小野澤雅博</p> <p>平成29年度 教員審査予定</p> <p>変更前：眞島任史(教授)</p> <p>変更後： 担当 高橋謙治(教授)</p> <p>平成29年1月 教員審査済 判定 可</p> <p>変更前：宮嶋朝光(准教授)</p> <p>変更後： 担当 森村仕志(講師)</p> <p>平成28年11月 教員審査済 判定 可</p> <p>変更前：中村京太(准教授)</p> <p>変更後： 担当 萬端瑠子(准教授)</p> <p>平成29年1月 教員審査済 判定 可</p> <p>変更前：鈴木伸高(准教授)</p> <p>変更後： 担当 高橋優宏(准教授)</p> <p>平成29年1月 教員審査済 判定 可</p>
	臨床実習Ⅲ (専門)	5年 2/3学期	25			54 60	12 13	14	11		兼 2 1	
	(次ページへつづく)											



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	(次ページからのつづき)	6年 1学期	10									兼 10 9 教育の充実のための、教員を追加(29) 担当 高橋謙治(教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 担当 船島司(講師) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 区分の変更(29) 増瀬達夫 変更前:専任(講師) 変更後:兼担 自己都合により7名が退職。多数の教員が いるため支障はない(29) (教授5名、准教授1名、講師1名) 日本語と英語による授業 自己都合による就任辞退のため担当者を変更 (29) 変更前:市丸直樹(教授) 変更後: 担当 小野澤雅樹 平成29年度 教員審査予定 変更前:眞島任史(教授) 変更後: 担当 高橋謙治(教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 変更前:田邊裕貞(准教授) 変更後: 担当 村田一希(教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 変更前:宮嶋朝光(准教授) 変更後: 担当 森村仕志(講師) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 変更前:長友祐司(准教授) 変更後: 担当 福田浩二(教授) 平成29年度 教員審査予定 変更前:島銅優(准教授) 変更後: 担当 吉岡大輔(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 変更前:中村京太(准教授) 変更後: 担当 萬塚美子(准教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 変更前:吉内裕裕(准教授) 変更後: 担当 山田祐(講師) 平成29年4月 教員審査提出予定 変更前:鈴木伸郎(准教授) 変更後: 担当 高橋優希(准教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 変更前:綾方政之(講師) 変更後: 担当 吉岡史路(講師) 平成29年11月 教員審査提出予定 変更前:内藤雄一郎(准教授) 変更後: 担当 島島利奈(准教授) 平成29年度 教員審査提出予定 変更前:瀧川知(助教) 変更後: 担当 市来智子(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可
	臨床実習Ⅳ (実践)						123 128	35 39	34 36	28 30		
	(次ページへつづく)											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	(次ページからのつづき)											教員の充塞のため、教員を追加(2名) 担当 高橋謙治(教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 担当 船島司(講師) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当 福谷孝治(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可 担当 高西良広(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 職位の変更(2名) 井上 聖 変更前(講師) 変更後(准教授) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 区分の変更(2名) 増瀬 達夫 変更前(専任(講師)) 変更後(兼任) 自己都合により15名が退席。多数の教員が いるため支障はない(2名) (教授7名、准教授1名、講師6名、助教1名)

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
  - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
24	8	24	56	24	8	25	57	
				[ ]	[ ]	[ 1 ]	[ 1 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{56} = \boxed{\phantom{0}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体  ■校舎敷地:借用 面積62,352㎡、期 間30年 ■運動場用地:① 借用面積3,557㎡、 期間5年間(道路占 用許可。その後、 順次更新)②借用 面積5,659㎡、期間 30年		
	校 舎 敷 地		262,852 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	262,852 ㎡			
	運 動 場 用 地		88,807 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	88,807 ㎡			
	小 計		351,659 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	351,659 ㎡			
	そ の 他		113,975 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	113,975 ㎡			
	合 計		465,634 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	465,634 ㎡			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体  ■借用面積16,187 ㎡、期間20年(内、 大学院校舎は10 年)			
		191,625 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	191,625 ㎡				
		( 157,557 ㎡ )	( 0 ㎡ )	( 0 ㎡ )	( 157,557 ㎡ )				
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	193 室	162 室	304 室	19 室 (補助職員 6人)	10 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数				
		医学部 医学科			300 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	電子ジャーナルの 一部は大学全体で 共用。その他は医 学部(29)  電子ジャーナルは 大学全体で共用。 ※維持費学部	
	医学部 医学科	13,500 [3,300]	100 [ 4 ] <del>100 [ 4 ]</del>	6,608 [5,278] <del>5,061 [3,823]</del>	280	27,811	108		
		(3,206 [2,016]) <del>(3,206 [2,016])</del>	( 100 [ 4 ] ) <del>( 100 [ 4 ] )</del>	(6,608 [5,278]) <del>(5,061 [3,823])</del>	( 0 ) <del>( 0 )</del>	( 8,017 ) <del>( 8,017 )</del>	( 57 ) <del>( 57 )</del>		
	計	13,500 [3,300]	100 [ 4 ] <del>100 [ 4 ]</del>	6,608 [5,278] <del>5,061 [3,823]</del>	280	27,811	108		
		(3,206 [2,016]) <del>(3,206 [2,016])</del>	( 100 [ 4 ] ) <del>( 100 [ 4 ] )</del>	(6,608 [5,278]) <del>(5,061 [3,823])</del>	( 0 ) <del>( 0 )</del>	( 8,017 ) <del>( 8,017 )</del>	( 57 ) <del>( 57 )</del>	学術書等に外国の 電子ジャーナルの 充実に注力した。 視聴覚資料は既製 品でなく教員作成 のe-learningを啓 用。(29)	
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
	7,756 ㎡		1,653 席		340,000 冊				
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	6,675 ㎡		弓道場		テニスコート				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書館配架の教 科書・参考書な ど一部を先行。 品目見直しや価 格交渉などを実施。 (29)
	教員1人当り研究費等		800千円	800千円	800千円	800千円	800千円	800千円	
	共同研究費等		40,000千円	50,000千円	50,000千円	50,000千円	50,000千円	50,000千円	
	図書購入費	874千円 <del>0千円</del>	100,000千円	82,000千円	84,000千円	93,000千円	98,000千円	100,000千円	
	設備購入費	514,176千円 <del>540,525千円</del>	1,396,315千円	1,824,210千円	50,000千円	3,550,000千円	50,000千円	50,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	4,500 千円	2,800 千円	2,800 千円	2,800 千円	2,800 千円	2,800 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入 等						

- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8) 経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	国際医療福祉大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員 人	編入学 定員 人	収容 定員 人	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
《AC対象学部等》	年	人	年次 人	人		倍		
医学部						1.00		
医学科	6	140	-	840	学士 (医学)	1.00	平成29年度	千葉県成田市 公津の杜4丁目3番
保健医療学部						1.11		
看護学科	4	115	-	415	学士 (看護学)	1.12	平成7年度	栃木県大田原市北金丸 2600番1
理学療法学科	4	100	-	340	学士 (理学療法 学)	1.12	平成7年度	同上
作業療法学科	4	80	-	320	学士 (作業療法 学)	1.12	平成7年度	同上
言語聴覚学科	4	80	-	320	学士 (言語聴覚 学)	1.09	平成7年度	同上
視機能療法学科	4	50	-	170	学士 (視機能療法 学)	1.11	平成14年度	同上
放射線・情報科学	4	120	-	420	学士 (放射線・情報 科学)	1.11	平成7年度	同上
医療福祉学部						1.01		
医療福祉・マシ ン学科	4	160	-	640	学士 (医療福祉 学) 学士 (医療マシ ン学)	1.01	平成9年度	同上
薬学部						1.08		
薬学科	6	180	-	1,080	学士 (薬学)	1.08	平成18年度	同上
小田原保健医療学部						1.13		
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.09	平成18年度	神奈川県小田原市城山一 丁目2番25号
理学療法学科	4	80	-	200	学士 (理学療法 学)	1.15	平成18年度	同上
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	1.16	平成18年度	同上
福岡看護学部						1.15		
看護学科	4	100	-	360	学士 (看護学)	1.15	平成20年度	福岡市早良区 百道浜1-7-4
福岡保健医療学部						1.12		
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法 学)	1.15	平成17年度	同上
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	1.10	平成17年度	同上

言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語聴覚学)	1.13	平成19年度	同上	
医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.09	平成25年度	同上	
成田看護学部						1.07			
看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.07	平成28年度	千葉県成田市 公津の杜4丁目3番	
成田保健医療学部						1.06			
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法学)	1.10	平成28年度	同上	
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	1.06	平成28年度	同上	
言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語聴覚学)	1.03	平成28年度	同上	
医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.06	平成28年度	同上	
医療福祉学研究科 修士課程						1.39			
保健医療学専攻	2	100	-	200	修士 (保健医療学)	1.68	平成11年度	栃木県大田原市北金丸 2600番1	
					修士 (看護学)				
					修士 (助産学)				
					修士 (言語聴覚学)				
					修士 (生殖補助医療学)				
					修士 (医療福祉教育・管理学)				
					修士 (臨床検査学)				
医療福祉経営専攻	2	50	-	100	修士 (医療福祉学)	1.02	平成13年度	同上	
					修士 (診療情報管理学)				
					修士 (医療ビジネス経営学)				
					修士 (医療福祉管理学)				
					修士 (介護福祉・ケアマネジメント学)				
					修士 (医療福祉ジャーナリズム学)				
臨床心理学専攻	2	25	-	50	修士 (臨床心理学)	1.00	平成19年度	同上	
医療福祉学研究科 博士課程						1.38			

保健医療学専攻	3	50	-	150	博士 (保健医療学)	1.38	平成13年度	同上	
					博士 (看護学)				
					博士 (助産学)				
					博士 (言語聴覚学)				
					博士 (生殖補助医療学)				
					博士 (臨床検査学)				
					博士 (医療福祉経営学)				
					博士 (医療福祉学)				
					博士 (診療情報管理学)				
					博士 (介護福祉・リハビリ科学)				
					博士 (臨床心理学)				
					博士 (医療福祉ジャーナリズム学)				
薬科学研究科 修士課程						0.20			
生命薬科学専攻	2	5	-	10	修士 (薬科学)	0.20	平成22年度	同上	
薬学研究科 博士課程						0.45			
医療・生命薬学 専攻	4	5	-	20	博士 (薬学)	0.45	平成24年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<医学部 医学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授 (学部長)	北村 聖 (62)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 海外医療体験	専	教授 (学部長)	北村 聖 (63)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 海外医療体験 医学史	平成28年11月AC教員審査済(29)
専	教授	天野 隆弘 (73)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門)	専	教授	天野 隆弘 (73)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 医学史	平成28年11月AC教員審査済(29)
専	教授	吉田 素文 (54)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 医療プロフェッショナルリズムⅡ(応用) 医療プロフェッショナルリズムⅢ(発展) 海外医療体験 関連職種連携ワーク 関連職種連携実習 臨床診断入門 症候と臨床推論(小グループ) ケーススタディ演習 総括講義 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						



設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	赤津 晴子 (55)	平成29年4月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 医学英語 医療入門・正常解剖演習 医療面接・身体診察Ⅰ(入門) 医療面接・身体診察Ⅱ(応用) 医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 医療プロフェッショナルリズムⅡ(応用) 医療プロフェッショナルリズムⅢ(発展) 器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 臨床診断入門 症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	岡本 秀彦 (42)	平成29年4月	基礎医学総論ⅠⅤ(生理学)						
専	教授	飯野(池田) 啓子 (54)	平成29年4月	生物学 医療生物学 基礎医学総論ⅠⅤ(生理学) 器官別統合講義Ⅰ(循環器系) 器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 器官別統合講義Ⅳ(腎泌尿器系) 器官別統合講義Ⅴ(婦人科系(乳腺含む))						
専	教授	後藤 純信 (55)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅷ(脳神経・精神系)						
専	教授	北川 元生 (55)	平成29年4月	医療化学 基礎医学総論Ⅰ(生化学)						
専	教授	小堀 浩幸 (52)	平成29年4月	基礎医学総論Ⅴ(薬理学) 器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系) 器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	森田 林平 (48)	平成29年4月	基礎医学総論Ⅲ(免疫学)	専	教授	森田 林平 (48)	平成29年4月	基礎医学総論Ⅲ(免疫学) 医学史	平成28年11月AC教員審査済(29)
専	教授	西村 涉 (49)	平成29年4月	基礎医学総論Ⅱ(分子生物学)						
専	教授	小阪 淳 (52)	平成29年4月	医療入門・正常解剖演習 基礎医学総論ⅤⅠ(組織学) 基礎医学総論ⅤⅡ(組織学演習) 発生・出産器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 正常人体解剖実習						
専	教授	森 泰丈 (46)	平成29年4月	医療入門・正常解剖演習 基礎医学総論ⅤⅠ(組織学) 基礎医学総論ⅤⅡ(組織学演習) 発生・出産正常人体解剖実習						
専	教授	富田 裕彦 (55)	平成29年4月	基礎医学総論ⅤⅢ(病理学) 基礎医学総論ⅠⅩ(病理学演習) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和)						
専	教授	福澤 龍二 (53)	平成29年4月	基礎医学総論ⅤⅢ(病理学) 基礎医学総論ⅠⅩ(病理学演習) 器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系)						
専	教授	潮見 隆之 (44)	平成29年4月	基礎医学総論ⅤⅢ(病理学) 基礎医学総論ⅠⅩ(病理学演習)						
専	教授	高橋 芳久 (45)	平成29年4月	基礎医学総論ⅤⅢ(病理学) 基礎医学総論ⅠⅩ(病理学演習)						
専	教授	森 一郎 (65)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 医療プロフェッショナルリズムⅡ(応用) 医療プロフェッショナルリズムⅢ(発展) 基礎医学総論ⅤⅢ(病理学) 基礎医学総論ⅠⅩ(病理学演習) 症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習)						
専	教授	矢島 大介 (48)	平成29年4月	社会医学Ⅲ(法医学) 社会医学Ⅴ(演習)	専	教授	矢島 大介 (48)	平成29年10月	社会医学Ⅲ(法医学) 社会医学Ⅴ(演習)	奨励専任における業務都合のため、なお担当授業科目の開講は平成31年のため、就任時期による影響はない(29)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	松本 哲哉 (54)	平成30年4月	感染症 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践) 総合臨床医学						
専	教授	加藤 康幸 (47)	平成30年4月	感染症 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践) 総合臨床医学 総括講義	専	教授	加藤 康幸 (47)	平成29年9月	感染症 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践) 総合臨床医学 総括講義	前倒就任予定(29)
専	教授	池田 俊也 (54)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 予防医学・行動科学 社会医学Ⅰ(医療管理学) 社会医学Ⅱ(衛生学・公衆衛生学) 社会医学Ⅳ(臨床疫学・EBM) 社会医学Ⅴ(演習) 総括講義						
専	教授	宮木 幸一 (42)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 社会医学Ⅱ(衛生学・公衆衛生学) 社会医学Ⅳ(臨床疫学・EBM) 社会医学Ⅴ(演習) 総括講義						
専	教授	Nwe Nwe Oo (60)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展)						
専	教授	Le Tran Ngoan (51)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展) 予防医学・行動科学						
専	教授	渡邊 治雄 (67)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	荻野 美恵子 (56)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 医療プロフェッショナルリズムⅡ(応用) 医療プロフェッショナルリズムⅢ(発展) 医療面接・身体診察Ⅰ(入門) 医療面接・身体診察Ⅱ(応用) 総合臨床医学症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習) 臨床診断入門 総括講義 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	山田 哲司 (60)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 医療プロフェッショナルリズムⅡ(応用) 医療プロフェッショナルリズムⅢ(発展) 器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						

設置時の計画				変更状況				備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月
専任	教授	矢野(五味) 晴美 (50)	平成30年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 医療プロフェッショナルリズムⅡ(応用) 医療プロフェッショナルリズムⅢ(発展) 医療面接・身体診察Ⅰ(入門) 医療面接・身体診察Ⅱ(応用) 器別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器別統合講義Ⅵ(婦人科系(乳腺含む)) 感染症 臨床診断入門 症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)					
兼任	講師	矢野(五味) 晴美 (49)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 医療面接・身体診察Ⅰ(入門) 器別統合講義Ⅱ(呼吸器系)					
専任	教授	桜井 亮太 (47)	平成29年4月	社会医学Ⅳ(臨床疫学・EBM) 社会医学Ⅴ(演習) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)					
専任	教授	石川 和信 (55)	平成29年4月	器別統合講義Ⅰ(循環器系) 器別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 救急と集中治療 麻酔 臨床診断入門					

設置時の計画				変更状況				備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月
専	教授	清水 伸幸 (52)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 医療プロフェッショナルリズムⅡ(応用) 医療プロフェッショナルリズムⅢ(発展) 総合臨床医学症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)					
専	教授	宮田 哲郎 (62)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムⅠ(入門) 医療プロフェッショナルリズムⅡ(応用) 医療プロフェッショナルリズムⅢ(発展) 器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 総合臨床医学臨床診断入門症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習) 総括講義 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)					
専	教授	内田 恵博 (62)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)					
専	教授	桂 研一郎 (57)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅶ(脳神経・精神系) 予防医学・行動科学 総合臨床医学総括講義 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)					

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	上野 俊昭 (52)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅶ(脳神経・精神系)	専	教授	河島 雅到 (50)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅶ(脳神経・精神系)	平成29年3月 附属病院を自己都合退職  なお、器官別統合講義Ⅶ(脳神経・精神系)上野教授担当箇所は河島教授との共同授業のため、特に後任の措置はとらない また総括講義当該箇所は桂教授が担当し、AC教員審査を予定。また、臨床実習4科目はそれぞれ多数の教員がいるため特に後任措置はとらない(29)
				総括講義	専	教授	桂 研一郎 (57)	平成29年4月	総括講義	
				臨床実習Ⅰ(基礎)			後任補充不要		臨床実習Ⅰ(基礎)	
				臨床実習Ⅱ(発展)			後任補充不要		臨床実習Ⅱ(発展)	
				臨床実習Ⅲ(専門)			後任補充不要		臨床実習Ⅲ(専門)	
				臨床実習Ⅳ(実践)			後任補充不要		臨床実習Ⅳ(実践)	
専	教授	桃井 眞里子 (69)	平成29年4月	関連職種連携実習	専	教授	大和田 倫孝 (61)	平成29年4月	関連職種連携実習	平成29年3月 国際医療福祉大学病院院長文替及び自己都合退職。 なお、AC教員審査は関連職種連携実習が開講する前年度(平成31年度)に受ける予定(29)
専	教授	北川 道弘 (69)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	北川 道弘 (69)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	教授	佐伯 直勝 (66)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	佐伯 直勝 (66)	平成30年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	教授	山崎 力 (61)	平成32年4月	予防医学・行動科学						
兼任	講師	山崎 力 (59)	平成30年4月	予防医学・行動科学						
専	教授	川上 和久 (59)	平成29年4月	英字新聞で読む社会学・政治学						
専	教授	高須賀 茂文 (59)	平成29年4月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 英語コミュニケーションA(入門) 英語コミュニケーションB(実践) 英字新聞で読む社会学・政治学						
専	教授	海老沼 浩利 (49)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床診断入門 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						

設置時の計画				変更状況				備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	
専	教授	西澤 俊宏 (41)	平成29年4月		専 教授	海老沼 浩利 (49)	平成30年4月	就任年月の変更に伴い、平成30年度及び31年度の器官別統合講義Ⅲ(消化器系)西澤教授担当所は海老沼教授が担当、平成29年度中にAC教員審査を受ける予定(29)
					専 教授	西澤 俊宏 (42)	平成32年4月	現勤務先における業務都合のため(29)
専	教授	高後 裕 (67)	平成29年4月					
専	教授	大竹 幸明 (51)	平成29年4月					
専	教授	佐藤 貴一 (58)	平成29年4月					
専	教授	河村 朗夫 (48)	平成29年4月					
専	教授	永井 敏雄 (56)	平成29年4月					
専	教授	柴 信行 (57)	平成29年4月					
専	教授	岡部 輝雄 (52)	平成29年4月	専	教授	岡部 輝雄 (52)	平成29年4月	平成29年7月AC教員審査予定(29)
専	教授	竹本 稔 (50)	平成29年4月					



設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	竹田 秀 (49)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	准教授	全 泰和 (49)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系)	平成29年3月 現勤務先における業務都合のため就任辞退。 なお、器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系)は担当箇所が全て全泰和准教授との共同授業のため、特に後任は設けない。 また、臨床実習3科目は担当教員が多数いるため、特に後任は設けないが、教育上支障はない(29)
									臨床実習Ⅰ(基礎)	
									臨床実習Ⅱ(発展)	
									臨床実習Ⅳ(実践)	
専	教授	栗田 卓也 (60)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	石川 三衛 (67)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	小山 一憲 (60)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	鷲田 直輝 (45)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	竹中 恒夫 (58)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	竹中 恒夫 (58)	平成32年4月	器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため、就任時期変更。なお、器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系)は就任前は兼任として担当する(29)
					兼任	講師		平成30年4月	器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系)	
専	教授	佐藤 敦久 (56)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	津島 健司 (50)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義Ⅶ(運動器・皮膚・膠原病) 臨床診断入門 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	大野 彰二 (59)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	中世古 知昭 (54)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅹ(血液系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 臨床診断入門 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	織谷 健司 (57)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅹ(血液系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	樋口 豊 (51)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 総合臨床医学 臨床診断入門 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	石黒 洋 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	石黒 洋 (50)	平成29年7月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	教授	村井 弘之 (54)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅷ(脳神経・精神系) 臨床診断入門 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	内山 智之 (50)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅷ(脳神経・精神系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	赤松 直輝 (54)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅷ(脳神経・精神系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	永山 正雄 (58)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	内海 裕也 (64)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	加藤 宏之 (61)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	岡 孝和 (57)	平成29年4月	総合臨床医学 総括講義 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	中里 道子 (52)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅶ(脳神経・精神系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 胎児・小児の成長と疾患(成育と臨床) 予防医学・行動科学 総合臨床医学 臨床診断入門 総括講義 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	廣瀬 晃一 (48)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅶ(運動器・皮膚・膠原病) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	大平 善之 (41)	平成29年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	岡田 唯男 (姜 忠男) (46)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)			後任補充不要			平成29年3月 現勤務先における業務都合のため教員辞退。 なお、当該実習科目2科目は教授3、講師1、助教1の体制であり、補充はしなくても教育上支障はないと考える(29)
専	教授	浦野 友彦 (48)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系) 老年医学 総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	板野 理 (49)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 臨床診断入門 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	板野 理 (49)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 臨床診断入門 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践) 医学史	平成28年11月AC教員審査済(29)
専	教授	加藤 厚 (52)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 総合臨床医学 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	鈴木 裕 (56)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	池田 佳史 (54)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	羽鳥 隆 (56)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	堀口 淳 (56)	平成29年4月	器官別統合講 義Ⅵ(婦人科系 (乳腺含 む)) 腫瘍と臨床 (放射線治療・ 緩和) 臨床診断入門 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	淵本 康史 (55)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践) 器官別統合講 義Ⅲ(消化器 系) 胎児・小児の成 長と疾患(成育 と臨床) 腫瘍と臨床 (放射線治療・ 緩和)	専	教授	淵本 康史 (55)	平成29年7月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践) 器官別統合講 義Ⅲ(消化器系) 胎児・小児の成 長と疾患(成育 と臨床) 腫瘍と臨床(放 射線治療・緩 和)	現勤務先における業務都合のため (29)
専	教授	吉田 成利 (52)	平成29年4月	器官別統合講 義Ⅱ(呼吸器 系) 腫瘍と臨床 (放射線治療・ 緩和) 臨床診断入門 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	石川 成美 (60)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	仲村 輝也 (49)	平成29年4月	器官別統合講 義Ⅰ(循環器 系) 総合臨床医学 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	松本 拓也 (48)	平成29年4月	器官別統合講 義Ⅰ(循環器 系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	小櫃 由樹生 (58)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	重松 邦広 (55)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	宮崎 淳 (48)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	大東 貴志 (57)	平成29年4月	腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	荒川 幸 (63)	平成29年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門)						
専	教授	市丸 直嗣 (48)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	准教授	小野澤 瑞樹 (48)	平成29年9月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	平成29年3月 現勤務先における業務都合による就任辞退 平成29年4月AC教員審査予定(29)
専	教授	河島 雅到 (50)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅶ(脳神経・精神系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 総合臨床医学 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	朝本 俊司 (53)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	石井 賢 (48)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅶ(運動器・皮膚・膠原病) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	中村 俊康 (53)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	中村 俊康 (53)	平成33年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	眞島 任史 (57)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	教授	高橋 謙治 (51)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成29年3月 国際医療福祉大学病院を 自己都合退職したため 就任辞退による交替。 平成29年1月AC教員審査済(29)
専	教授	角田 亘 (50)	平成29年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	太田 喜久夫 (59)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	草野 修輔 (52)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	田中 宏一 (52)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 器官別統合講義Ⅵ(婦人科系 (乳腺含む)) 発生・出産 胎児・小児の成長と疾患(成育と臨床) 総合臨床医学 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	進 伸幸 (55)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅵ(婦人科系 (乳腺含む)) 腫瘍と臨床 (放射線治療・緩和) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	教授	河村 和弘 (48)	平成31年4月	発生・出産 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	教授	河村 和弘 (46)	平成30年4月	発生・出産 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	前倒し就任(29)
兼任	講師	河村 和弘 (46)	平成29年4月	発生・出産						
専	教授	松田 義雄 (63)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)			後任補充不要			平成29年3月 附属病院を自己都合退職したため就任辞退。 なお、当該実習科目3科目は教授4、准教授2、助教2の体制であり、補充はしなくても教育上支障はないと考える(29)
専	教授	大和田 倫孝 (61)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	水野 晴夫 (51)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 器官別統合講義Ⅵ(婦人科系(乳腺含む)) 胎児・小児の成長と疾患(成育と臨床) 総合臨床医学 臨床診断入門 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	郡司 勇治 (57)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	布山 裕一 (48)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	布山 裕一 (49)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	教授	臼井 智彦 (47)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅸ(感覚器系) 老年医学 臨床診断入門 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	臼井 智彦 (47)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅸ(感覚器系) 老年医学 臨床診断入門 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	教授	忍足 俊幸 (47)	平成29年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	忍足 俊幸 (47)	平成30年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	教授	森 圭介 (54)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	高野 雅彦 (56)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	宇佐美 真一 (62)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅸ(感覚器系) 老年医学 総合臨床医学 臨床診断入門 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	宇佐美 真一 (62)	平成32年4月	器官別統合講義Ⅸ(感覚器系) 老年医学 総合臨床医学 臨床診断入門 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため。就任時期変更。なお、器官別統合講義Ⅸ(感覚器系)、老年医学、総合臨床医学及び臨床診断入門は就任前は兼任として担当する(29)。
				兼任 講師		宇佐美 真一 (62)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅸ(感覚器系) 老年医学 総合臨床医学 臨床診断入門		
専	教授	野口 佳裕 (53)	平成29年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	岡野 光博 (52)	平成29年4月	器官別統合講義IX(感覚器系) 総合臨床医学臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	今西 順久 (50)	平成29年4月	器官別統合講義IX(感覚器系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 総合臨床医学臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	今西 順久 (50)	平成30年4月	器官別統合講義IX(感覚器系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 総合臨床医学臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	教授	渡邊 雄介 (51)	平成29年4月	器官別統合講義IX(感覚器系) 総合臨床医学臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	岩崎 聡 (56)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	菅谷 誠 (46)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅶ(運動器・皮膚・膠原病) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 総合臨床医学臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	松崎 恭一 (54)	平成29年4月	総合臨床医学臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	小坂 正明 (58)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)			後任補充不要			平成29年3月、自己都合により就任辞退。なお、当該実習科目2科目は教授1、准教授1、講師1、助教2の体制であり、補充はしなくても教育上支障はないと考えらる(29)
専	教授	倉橋 清泰 (54)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系) 器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 麻酔 総合臨床医学臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	倉橋 清泰 (55)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系) 器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 麻酔 総合臨床医学臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践) 医学史	平成28年11月AC教員審査済(29)
専	教授	花崎 元彦 (50)	平成29年4月	総合臨床医学麻酔 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	澁田 達史 (50)	平成29年4月	総合臨床医学麻酔 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						



設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	赤羽 正章 (49)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅰ(循環器系) 器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系) 器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 器官別統合講義Ⅵ(婦人科系(乳腺含む)) 総合臨床医学臨床診断入門 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	桐生 茂 (59)	平成29年4月	総合臨床医学臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	百瀬 敏光 (59)	平成29年4月	医療物理学・医用工学 総合臨床医学臨床診断入門 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	梶野 繁 (61)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	下澤 達雄 (54)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 器官別統合講義Ⅹ(血液系) 総合臨床医学臨床診断入門 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	石崎 憲 (48)	平成31年4月	臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	石崎 憲 (48)	平成32年4月	臨床実習Ⅳ(実践)	奨励優先における業務都合のため(29)
専	教授	重政 朝彦 (52)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	目黒 知巳 (56)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	山田 佳彦 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	吉田 明 (56)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	橋本 律夫 (59)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	後藤 順 (61)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	梅田 啓 (55)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	岩本 俊彦 (69)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	國友 隆二 (58)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	牛島 輝明 (52)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	村上 厚文 (60)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	内田 克紀 (61)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	石井 淳一郎 (47)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	西山 誠 (61)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	堀 武生 (49)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)			後任補充不要			平成29年3月 附属病院を自己都合退職したため 辞任 なお、当該実習科目2科目は教授5名 教授2名、講師1名、助教2名の体制であり、補 充はしなくても教育上支障はないと 考える(29)
専	教授	新井 健 (49)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	中川 雅文 (56)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	原田 竜彦 (52)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	三浦 弘規 (54)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	志賀 俊哉 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	小黒 恵司 (58)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	横川 徳造 (55)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)			後任補充不要			平成29年3月 附属病院を自己都合退職したため就任辞退。 なお、当該実習科目2科目は教授5、准教授1、講師3、助教1の体制であり、補充はしなくても教育上支障はないと考える(29)
専	教授	戸矢 和仁 (51)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	教授	高橋 和郎 (61)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
					専	教授	奥仲 哲弥 (58)	平成32年4月	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系)	現勤務先における業務都合のため就任時期変更。就任前は当該科目は兼任として担当。平成28年11月AC教員審査済(29)
					兼任	講師		平成29年4月	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系)	
					専	教授	山下 浩二 (58)	平成29年7月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	平成29年4月AC教員審査予定(29)
専	准教授	押味 貴之 (44)	平成29年4月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 英語コミュニケーションA(入門) 英語コミュニケーションB(実践) 医学英語						
専	准教授	Brian Sanjay Heist (43)	平成31年4月	医学英語 医療面接・身体診察Ⅰ(入門) 医療面接・身体診察Ⅱ(応用)						
専	准教授	Imran Raza Jawaid (37)	平成29年4月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 医学英語 医療入門・正常解剖演習 医療面接・身体診察Ⅰ(入門) 医療面接・身体診察Ⅱ(応用)	専	准教授	Imran Raza Jawaid (37)	平成29年5月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 医学英語 医療入門・正常解剖演習 医療面接・身体診察Ⅰ(入門) 医療面接・身体診察Ⅱ(応用)	前職の都合により就任が1ヶ月遅延。授業は全てグループ分けの共同授業のため、他の英語担当教員全員グループを配分することにより不在の間補った(29)
専	准教授	栗田 康生 (47)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅰ(循環器系) 臨床診断入門 総括講義 臨床実習Ⅰ(基礎)						
専	准教授	田邊 裕貴 (48)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	村田 一素 (55)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	平成29年3月 附属病院を自己都合退職したため就任辞退。 平成29年1月AC教員審査済(29)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	准教授	片岡 幹統 (45)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	准教授	長友 祐司 (41)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	教授	福田 浩二 (48)	平成29年7月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	平成29年3月 現勤務先における業務都合のため就任辞退。 平成29年4月AC教員審査予定(29)
専	准教授	稲見 茂信 (46)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	准教授	保田 壮一郎 (49)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	准教授	田村 雄一 (38)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅰ(循環器系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	准教授	武田 守彦 (47)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	准教授	(Tae-Hwa Chun) 全 泰和 (49)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	准教授	(Tae-Hwa Chun) 全 泰和 (49)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅳ(内分泌代謝系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	准教授	吉田 知彦 (45)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	准教授	吉田 知彦 (45)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	准教授	大和田 千桂子 (43)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅹ(血液系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	准教授	大和田 千桂子 (43)	平成32年4月	器官別統合講義Ⅹ(血液系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため、なお、器官別統合講義Ⅹ(血液系)は就任前は兼任として担当する(29)
					兼任	講師		平成30年4月	器官別統合講義Ⅹ(血液系)	
専	准教授	林 信太郎 (47)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	准教授	林 信太郎 (47)	平成29年8月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	准教授	吉内 裕絵 (41)	平成29年4月	臨床実習Ⅳ(実践)	専	講師	山田 祐 (43)	平成29年7月	臨床実習Ⅳ(実践)	平成29年3月 現勤務先における業務都合のため就任辞退。 平成29年4月AC教員審査予定(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	橋本 佐 (41)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	准教授	橋本 佐 (41)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務
専	准教授	星本 相淳 (46)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	大山 隆史 (42)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	鶴田 雅士 (41)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	鳥飼 慶 (45)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)	専	講師	吉岡 大輔 (39)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成29年3月、現勤務先における業務都合のため就任辞退。 平成29年1月AC教員審査済(29)
専	准教授	左村 和宏 (41)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)						
専	准教授	木原 真紀 (46)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	准教授	木原 真紀 (46)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	准教授	茂木 英明 (43)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	准教授	茂木 英明 (43)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	准教授	北尻 真一郎 (45)	平成29年4月	基礎医学総論Ⅱ(分子生物学) 臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	准教授	北尻 真一郎 (45)	平成32年4月	基礎医学総論Ⅱ (分子生物学) 臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	准教授	宮垣 朝光 (37)	平成29年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	森村 壮志 (36)	平成29年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成29年3月、現勤務先における業務都合のため就任辞退。 平成28年11月AC教員審査済。 なお、総合臨床医学の中の臨床実習Ⅲ担当は、森村講師で改めてAC教員審査を受ける予定(29)
専	准教授	大原 博敏 (43)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	准教授	大原 博敏 (43)	平成33年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	准教授	中村 京太 (47)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	准教授	馬場 靖子 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成29年3月 現勤務先における業務都合 のため就任辞退。 平成29年1月AC教員審査済(29)
専	准教授	佐藤 一道 (43)	平成31年4月	臨床実習Ⅳ (実践)						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	准教授	井岡 崇 (46)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	長瀬 清亮 (48)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	大平 寛典 (45)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)						
専	准教授	似鳥 修弘 (42)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)						
専	准教授	林 和 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	加藤 容二郎 (44)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)			後任補充不要			
専	准教授	松本 英司 (48)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)						
専	准教授	栗田 英治 (46)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	中村 聡 (52)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	石川 雅之 (49)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	長島 正樹 (41)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	柿沼 敏行 (45)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	鈴木 伸嘉 (42)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	准教授	高橋 優宏 (46)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成29年3月 附属病院を自己都合退職 したため就任辞退。 平成29年1月AO教員審査済(29)
専	准教授	多田 雄一郎 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	准教授	奥田 逸子 (52)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	矢郷 香 (55)	平成29年4月	器官別統合講義IX(感覚器系) 総合臨床医学臨床実習IV(実践)						
専	准教授	林 省吾 (41)	平成29年4月	医療入門・正常解剖演習 医療プロフェッショナルリズムI(入門) 医療プロフェッショナルリズムII(応用) 医療プロフェッショナルリズムIII(発展) 基礎医学総論V II(組織学演習) 器官別統合講義VIII(脳神経・精神系) 正常人体解剖実習 症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習)					医療入門・正常解剖演習 医療プロフェッショナルリズムI(入門) 医療プロフェッショナルリズムII(応用) 医療プロフェッショナルリズムIII(発展) 基礎医学総論V II(組織学演習) 器官別統合講義VIII(脳神経・精神系) 正常人体解剖実習 症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習) 医学史	平成28年11月AC教員審査済(29)
専	准教授	足立 雅之 (44)	平成29年4月	医療プロフェッショナルリズムI(入門) 医療プロフェッショナルリズムII(応用) 医療プロフェッショナルリズムIII(発展) 医療面接・身体診察I(入門) 医療面接・身体診察II(応用) 総合臨床医学症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習) 臨床実習I(基礎) 臨床実習II(発展) 臨床実習III(専門) 臨床実習IV(実践)	専	教授	海老沼 浩利 (49)	平成31年4月	総合臨床医学	現勤務先の業務都合により、就任時期の変更及び一部科目について担当者変更。
					専	准教授	足立 雅之 (45)	平成32年4月	臨床実習I(基礎) 臨床実習II(発展) 臨床実習III(専門) 臨床実習IV(実践)	総合臨床医学についてはオムニバス担当6回分を海老沼教授が担当。なお平成30年度中にAC教員審査を受ける予定。 医療プロフェッショナルリズムI(入門)、医療プロフェッショナルリズムII(応用)、医療プロフェッショナルリズムIII(発展)、医療面接・身体診察I(入門)、医療面接・身体診察II(応用)及び症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習)の6科目は、いずれもグループ学習の担当であり、共同授業科目であり、医学教育統括センター所属教員全員でカバーすることで対応する。よって後任の補充は特に行わなくても教育上の支障はないと考える(29)
							後任補充不要		医療プロフェッショナルリズムI(入門)	
							後任補充不要		医療プロフェッショナルリズムII(応用)	
							後任補充不要		医療プロフェッショナルリズムIII(発展)	
							後任補充不要		医療面接・身体診察I(入門)	
							後任補充不要		医療面接・身体診察II(応用)	
							後任補充不要		症候と臨床推論(小グループケーススタディ演習)	
専	准教授	志賀 隆 (41)	平成30年4月	器官別統合講義II(呼吸器系) 救急と集中治療 総合臨床医学臨床診断入門 臨床実習III(専門) 臨床実習IV(実践)	専	准教授	志賀 隆 (41)	平成29年7月	器官別統合講義II(呼吸器系) 救急と集中治療 総合臨床医学臨床診断入門 臨床実習III(専門) 臨床実習IV(実践)	前例し就任のため、当初年度は兼任を予定していたが、初年度から専任として就任できることとなった。(29)
兼任	講師	志賀 隆 (40)	平成29年4月	器官別統合講義II(呼吸器系)	兼任	講師	志賀一隆 (40)	平成29年4月	器官別統合講義II(呼吸器系)	

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	准教授	内藤 雄一郎 (45)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	准教授	鳥巢 利奈 (41)	平成29年9月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成29年3月 副属病院を自己都合退職 したため就任辞退。 平成29年4月AC教員審査予定(29)
					専	准教授	川岸 久太郎 (45)	平成29年4月	医療入門・正常 解剖演習 基礎医学総論Ⅴ Ⅱ(組織学演習) 器官別統合講義 Ⅰ(循環器系) 器官別統合講義 Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義 Ⅲ(消化器系) 器官別統合講義 Ⅳ(内分泌代謝系) 器官別統合講義 Ⅴ(腎泌尿器系) 器官別統合講義 Ⅵ(婦人科系 (乳腺含む)) 器官別統合講義 Ⅶ(運動器・皮膚・ 膠原病) 器官別統合講義 Ⅷ(脳神経・精神系) 正常人体解剖実習	平成28年11月AC教員審査済(29)
					専	准教授	インドウ 史郎 (45)	平成29年7月	感染症 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成29年4月AC教員審査予定(29)
専	講師	井上 寧 (48)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	准教授	井上 寧 (48)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成28年11月AC教員審査済(29)
専	講師	林 真理子 (48)	平成29年4月	基礎医学総論Ⅴ (薬理学)						
専	講師	湯澤 聡 (46)	平成29年4月	基礎医学総論Ⅰ (生化学)	専	講師	湯澤 聡 (46)	平成29年4月	基礎医学総論Ⅰ (生化学) 化学	担当科目追加。平成26年11月AC教員 審査済み(29)
専	講師	Do Nguyen-Van (52)	平成29年4月	基礎医学総論Ⅴ Ⅲ(病理学) 基礎医学総論 Ⅹ(病理学演習)	専	講師	Do Nguyen-Van (51)	平成32年4月	基礎医学総論Ⅴ Ⅲ(病理学) 基礎医学総論Ⅰ Ⅹ(病理学演習)	現勤務先における業務都合のため (29)
専	講師	本村 あゆみ (38)	平成30年4月	社会医学Ⅲ (法医学) 社会医学Ⅴ (演習)						
専	講師	Htar Htar Soe (43)	平成29年4月	国際医療保健 学Ⅰ(入門) 社会医学Ⅴ (演習)			後任補充不要			平成29年3月、現勤務先における業務 都合のため就任辞退。なお担当科目 は全て共同科目であり、グループ ワーク指導であるため、他の教員で 補うことが可能であり、後任の補充 は不要と考える(29)



設置時の計画				変更状況				備考			
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	Than Soe Lin (44)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展) 予防医学・行動科学							
専	講師	Purevdorj B. Olkhanud (38)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展) 予防医学・行動科学	専	講師	Purevdorj B. Olkhanud (38)	平成29年9月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展) 予防医学・行動科学	現勤務先における業務都合のため、なお1年次配当科目である国際医療保健学Ⅰは3月より開講する授業であり、開講には就任が間に合うため問題ない(29)	
専	講師	Ariuntuul Garidkhuu (48)	平成30年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展)							
専	講師	Nguyen Duy Phong (48)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展)			後任補充不要			平成29年3月、現勤務先における業務都合のため就任辞退。なお担当科目は全て共同科目であり、グループワーク指導であるため、他の教員で補うことが可能であり、後任の補充は不要と考える(29)	
専	講師	Hsiao-Lin Huang (44)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展)	専	講師	Hsiao-Lin Huang (44)	平成32年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展)	現勤務先における業務都合のため就任遅延。なお担当科目は全て共同科目であり、グループワーク指導であるため、他の教員で補うことが可能であり、教育上の支障はないと考える(29)	
専	講師	Aung Thiha (39)	平成32年4月	基礎医学総論ⅤⅢ(病理学) 基礎医学総論ⅠⅩ(病理学演習)							
専	講師	Myint Thazin Aung (39)	平成32年4月	感染症							
専	講師	小林 元 (45)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅰ(循環器系) 器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 器官別統合講義Ⅵ(婦人科系(乳腺含む)) 器官別統合講義Ⅸ(感覚器系) 救急と集中治療 麻酔 臨床診断入門							
専	講師	Florescu Mihail Cosmin (36)	平成29年4月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 英語コミュニケーションA(入門) 英語コミュニケーションB(実践) 医学英語							

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	Butterfield, Jeffrie Leigh (36)	平成29年4月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 英語コミュニケーションA(入門) 英語コミュニケーションB(実践) 医学英語	専	講師	井之川 陸美 (61)	平成29年4月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 英語コミュニケーションA(入門) 英語コミュニケーションB(実践)	平成29年3月、自己都合による就任辞退。なお医学英語は共同科目でありグループ担当であるので、他の医学英語担当教員で分担して補うことにより、後任の補充はなくても教育上の支障はないと考える(29) 平成29年1月AC教員審査済(29)
					専	講師	早坂 裕介 (38)	平成29年4月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 英語コミュニケーションA(入門) 英語コミュニケーションB(実践)	平成29年1月AC教員審査済(29)
専	講師	Martin, Barnabas Jon (37)	平成29年4月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 英語コミュニケーションA(入門) 英語コミュニケーションB(実践) 医学英語						
専	講師	宮田 直輝 (39)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	講師	碓井 真吾 (37)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	講師	碓井 真吾 (37)	平成32年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため、就任時期変更 なお、器官別統合講義Ⅲ(消化器系)は就任前は兼任として担当する(29)
					兼任	講師		平成29年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系)	
専	講師	西山 信大 (39)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	講師	西山 信大 (39)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	大西 俊一郎 (38)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	講師	大西 俊一郎 (38)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	市村 康典 (36)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	講師	吉村 伶 (40)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	講師	吉村 伶 (40)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	松瀬 大 (40)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	講師	松瀬 大 (40)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	澤本 良子 (38)	平成29年4月	臨床実習Ⅳ (実践)			後任未定			平成29年4月、現勤務先における業務都合のため就任辞退。当該実習は平成34年度開講科目ではあるが、体系的にややゆいので事後公募を行い、後任を補充する(29)
専	講師	木村 大 (37)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	木村 大 (38)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	川島 宏稔 (36)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	川島 宏稔 (36)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	上原 孝紀 (39)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	上原 孝紀 (39)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	長谷川 康 (39)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)	専	講師	長谷川 康 (39)	平成31年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)	現勤務先における業務都合のため。 なお、器官別統合講義Ⅲ(消化器系)は就任前は兼任として担当する(29)
					兼任	講師		平成29年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系)	
専	講師	平野 佑樹 (37)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	講師	眞柳 修平 (35)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)						
専	講師	菊池 弘人 (34)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)	専	講師	菊池 弘人 (34)	平成32年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	中島 崇裕 (40)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	中島 崇裕 (40)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	鈴木 秀海 (40)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	鈴木 秀海 (40)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	若宮 富浩 (36)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)	専	講師	若宮 富浩 (36)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	船尾 陽生 (40)	平成29年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	講師	Gao Feng 高 峰 (33)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	Gao Feng 高 峰 (33)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	辰巳 智章 (46)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	講師	辰巳 智章 (46)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	宮川 麻衣子 (36)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)			後任補充不要			平成29年3月 現勤務先における業務都合により就任辞退。 なお、当該実習科目2科目は教授9、准教授4、講師1、助教2の体制であり、補充はしなくても教育上支障はないと考える(29)
専	講師	吉村 豪兼 (35)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	講師	吉村 豪兼 (35)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	谷口 隆志 (34)	平成29年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	講師	鳥海 正博 (35)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門)	専	講師	鳥海 正博 (35)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ(専門)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	高橋 涉 (33)	平成29年4月	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	講師	高橋 涉 (33)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系) 器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 器官別統合講義Ⅴ(腎泌尿器系) 腫瘍と臨床(放射線治療・緩和) 総合臨床医学 臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため。 なお、器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系)は就任前は兼任として担当する(29)
					兼任	講師		平成30年2月	器官別統合講義Ⅱ(呼吸器系)	
専	講師	Chiung-Wen Kuo (45)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	講師	Chiung-Wen Kuo (45)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	亀卦川 喜美子 (40)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	講師	手塚 修一 (43)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)			後任補充不要			平成29年3月 附属病院を自己都合退職したため就任辞退。 なお、当該実習科目3科目は教授8、准教授1、講師2の体制であり、補充はしなくても教育上支障はないと考える(29)
専	講師	山口 学 (38)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	講師	川又 竜 (41)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)			後任未定			平成29年3月 附属病院を自己都合退職したため就任辞退。 なお、当該実習は平成32年度開講科目ではあるが、教育効果の向上を図るため今後公募を行い、後任を補充する予定である(29)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	講師	増淵 達夫 (43)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	兼任	准教授	増淵 達夫 (43)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	自己都合による就任辞退。医学部の教育に対しては病院勤務医師の兼任准教授として携わる(29)
専	講師	竹腰 知紀 (41)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	講師	國松 奈津子 (46)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	講師	酒井 元 (39)	平成29年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	酒井 元 (39)	平成32年4月	総合臨床医学 臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため。なお、総合臨床医学は就任前につき兼任として担当する(29)
					兼任	講師		平成31年4月	総合臨床医学	
専	講師	吉原 一文 (51)	平成29年4月	臨床実習Ⅳ (実践)			後任未定			平成29年3月、現勤務先における業務都合のため就任辞退。当該実習は平成34年度開講科目ではあるが、教育効果の向上を図るため今後公募を行い、後任を補充する予定である(29)
専	講師	古川 智一 (45)	平成29年4月	臨床実習Ⅳ (実践)			後任未定			平成29年3月、現勤務先における業務都合のため就任辞退。当該実習は平成34年度開講科目ではあるが、教育効果の向上を図るため今後公募を行い、後任を補充する予定である(29)
専	講師	柳原 雅裕 (50)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	柳原 雅裕 (50)	平成30年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	講師	緒方 敦之 (38)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	吉岡 史隆 (37)	平成29年7月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成29年3月、現勤務先における業務都合のため就任辞退(29) 平成29年4月、AC教員審査予定(29)
専	講師	河村 陽一郎 (35)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	河村 陽一郎 (35)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
					専	講師	福島 司 (41)	平成30年4月 平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成28年11月AC教員審査済。現勤務先における業務都合のため、就任時期が変更となる(29)
					専	講師	細谷 幸治 (47)	平成30年4月 平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成29年1月AC教員審査済。現勤務先における業務都合のため、就任時期が変更となる(29)
専	助教	菅田 陽太 (35)	平成29年4月	医療入門・正常解剖演習 基礎医学総論ⅤⅡ(組織学演習) 正常人体解剖実習	専	講師	吉岡 広陽 (42)	平成29年4月	医療入門・正常解剖演習 基礎医学総論ⅤⅡ(組織学演習) 正常人体解剖実習	平成29年3月、現勤務先における業務都合のため就任辞退(29) 後任は平成29年1月AC教員審査済 なお、基礎医学総論ⅤⅡ(組織学演習)は平成29年7月AC教員審査予定(29)
専	助教	山口 るつ子 (45)	平成30年4月	社会医学Ⅴ (演習)						
専	助教	Tseesodroltso o Ariunaa (37)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 社会医学Ⅴ (演習)	専	助教	Tseesodroltso o Ariunaa (38)	平成31年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 社会医学Ⅴ(演習)	現勤務先における業務都合のため。なお担当科目は全て共同科目であり、グループワーク指導であるため、他の教員で補うことが可能であり、教育上の支障はないものとする(29)
専	助教	ZHAO YANJIE 趙 衍捷 (31)	平成29年4月	海外医療体験						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	Choomplang Nattadech (31)	平成29年4月	海外医療体験						
専	助教	Khatiwada Januka (30)	平成30年4月	海外医療体験						
専	助教	JIANG HONG 姜 紅 (38)	平成30年4月	海外医療体験						
専	助教	Tamer lan Babayev (30)	平成29年4月	英語Ⅰ(入門) 英語Ⅱ(応用) 医学英語 医療入門・正常解剖演習 医療面接・身体診察Ⅰ(入門) 医療面接・身体診察Ⅱ(応用)						
専	助教	Pham Duy Tai (40)	平成29年4月	海外医療体験	専	助教	Pham Duy Tai (40)	平成29年7月	海外医療体験	現勤務先における業務都合のため、なお担当科目は全て共同科目であり、グループワーク指導であり、海外医療体験におけるグループ指導においては支障はないと考える(29)
専	助教	鈴木 健一 (40)	平成31年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	助教	鈴木 健一 (40)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	助教	高柳 晋 (35)	平成30年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	助教	高柳 晋 (35)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	助教	東ヶ崎 絵美 (35)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	助教	細田 豊 (44)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	助教	細田 豊 (44)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	助教	鋪野 紀好 (34)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	助教	鋪野 紀好 (34)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	助教	岡本 宗史 (35)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践) 総合臨床医学	専	助教	岡本 宗史 (35)	平成30年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践) 総合臨床医学	現勤務先における業務都合のため(29)
専	助教	LIU XUAN 劉 軒 (29)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	助教	LIU XUAN 劉 軒 (29)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	助教	竹島 憲一郎 (36)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
専	助教	中山 政憲 (39)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	専	助教	中山 政憲 (39)	平成30年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)	現勤務先における業務都合のため(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	塙 真輔 (35)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	助教	塙 真輔 (35)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため (29)
専	助教	河原井 麗正 (38)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	助教	河原井 麗正 (38)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため (29)
専	助教	木内 智喜 (30)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門)	専	助教	木内 智喜 (31)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ (専門)	現勤務先における業務都合のため (29)
専	助教	梶田 大樹 (30)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門)	専	助教	梶田 大樹 (30)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ (専門)	現勤務先における業務都合のため (29)
専	助教	桑原 大輔 (32)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	助教	桑原 大輔 (32)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため (29)
専	助教	Thet Pe Win (40)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	助教	Thet Pe Win (41)	平成32年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため (29)
専	助教	佐竹 洋之 (36)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	助教	岩堀 浩也 (30)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	助教	谷口 浩久 (31)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	助教	瀬川 知 (49)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	講師	市来 智子 (44)	平成29年8月 平成29年4月	器官別統合講義 Ⅰ(循環器系) 臨床診断入門 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成29年3月 現勤務先における業務都合 就任辞退(29) 平成29年1月AC教員審査済。なお、当 初より就任が4ヶ月遅れるが、授業開 始前であり特段支障はない(29)
専	助教	平馬 誠之 (34)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	助教	金子 真也 (32)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)			後任補充不要			平成29年3月 現勤務先における業務都合 就任辞退。 なお、当該実習科目3科目は教授5、准 教授2、講師1、助教1の体制であり、補 充はしなくても教育上支障はないと 考える(29)
専	助教	山田 純子 (37)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	助教	小川 裕介 (36)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	助教	諫見 有紀 (31)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	助教	河合 徹 (32)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ (専門) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	助教	西尾 信哉 (44)	平成31年4月	基礎医学総論Ⅱ (分子生物学)	専	助教	西尾 信哉 (42)	平成32年4月	基礎医学総論Ⅱ (分子生物学)	現勤務先における業務都合のため就任時期変更。なお、基礎医学総論Ⅱ(分子生物学)は就任前は兼任として担当する(29)。
					兼任	講師		平成31年4月	基礎医学総論Ⅱ (分子生物学)	
専	助教	Khandakar Mohammad Anwarul Haque (43)	平成30年4月	感染症						
専	助教	Vitalii Lythnev (30)	平成29年4月	海外医療体験						
専	助教	Maung Thein Htaik (46)	平成29年4月	国際医療保健学Ⅰ(入門) 国際医療保健学Ⅱ(応用) 国際医療保健学Ⅲ(発展)						
専	助教	森 清人 (39)	平成30年4月	器官別統合講義Ⅲ(消化器系) 臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
専	助教	徳永 聡 (37)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	助教	徳永 聡 (37)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	助教	郡 隆輔 (37)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)			後任補充不要			平成29年3月 現勤務先における業務都合のため就任辞退。 なお、当該実習科目3科目は教授2、准教授4、講師2、助教4の体制であり、補充はしなくても教育上支障はないと考える(29)
専	助教	黒木 亮太 (34)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	助教	黒木 亮太 (34)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	助教	黒木 愛 (34)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	専	助教	黒木 愛 (35)	平成32年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務都合のため(29)
専	助教	Gu Rui 順 蕊 (37)	平成29年4月	臨床実習Ⅳ (実践)	専	助教	Gu Rui 順 蕊 (35)	平成32年4月	臨床実習Ⅳ (実践)	現勤務先における業務
専	助教	柳 裕代 (49)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)						
					専	助教	鈴木 知子 (56)	平成29年4月	社会医学Ⅴ(演習)	平成28年11月AG教員審査済(29)
					専	助教	葛西 貴広 (34)	平成29年9月 平成29年4月	臨床実習Ⅰ (基礎) 臨床実習Ⅱ (発展) 臨床実習Ⅳ (実践)	平成28年11月AG教員審査済。現勤務先における業務都合のため就任が滞れるが、担当実習においては支障はないと考える(29)



設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					専	助教	Hasan Arif Ul (40)	平成29年4月		平成29年1月AC教員審
					専	助教	Rahman Md Asadur (33)	平成29年4月		平成29年1月AC教員審
兼任	専任別学員	松谷 有希雄 (67)	平成29年4月	社会保障と医療制度						
兼任	教授	中村 秀一 (68)	平成29年4月	社会保障と医療制度						
兼任	教授	坪倉 繁美 (64)	平成32年4月	関連職種連携ワーク						
兼任	教授	久保 晃 (56)	平成32年4月	関連職種連携ワーク						
兼任	教授	谷口 敬道 (51)	平成32年4月	関連職種連携ワーク						
兼任	教授	畔上 恭彦 (58)	平成32年4月	関連職種連携ワーク						
兼任	教授	新井田 幸裕 (58)	平成32年4月	関連職種連携ワーク						
兼任	教授	勝俣 健一郎 (66)	平成32年4月	関連職種連携ワーク						
兼任	教授	小林 雅彦 (59)	平成32年4月	関連職種連携ワーク						
兼任	教授	渡邊 敏子 (63)	平成32年4月	関連職種連携ワーク						
兼任	教授	稲垣 誠一 (61)	平成29年4月	数学統計学						
兼任	教授	宮嶋 宏行 (47)	平成29年4月	物理学						
					兼任	教授	鹿島 晴雄 (71)	平成29年4月	医学史	医学史の授業内容を精神科医の立場から補強するための追加(29)
兼任	准教授	小川 俊夫 (51)	平成29年4月	国際機関論	兼任	准教授	小川 俊夫 (51)	平成29年4月	国際機関論	当初は小川准教授が15回単独で担当する予定であったが、専任力特任教授が15回中3回担当することになり、オムニバス形式に変更となった(29)
					兼任	特任教授	等々力 勝 (68)	平成29年4月	国際機関論	
兼任	准教授	清宮 正徳 (53)	平成29年4月	化学	専	講師	湯澤 聡 (46)	平成29年4月	基礎医学総論1(生化学)化学	当初は兼任の清宮准教授を予定していたが、本学学科の学年進行と併せて負荷が増してきているので、医学部専任の湯澤講師に担当を交替したものである。平成28年11月AC教員審査済み(29)
兼任	准教授	福井 謙 (45)	平成29年4月	日本の近現代史						
兼任	講師	佐藤 寛子 (44)	平成29年4月	フランス語入門(会話含む)フランス語応用(会話含む)						

設置時の計画				変更状況				備考	
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		
兼担	講師	茅野 正雄 (50)	平成29年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	兼担 講師	茅野 正雄 (62) (50)	平成29年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	申請時の年齢に誤りがあったので修正した(29)
				日本語Ⅰ-B(文法・語彙)				日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	
				日本語Ⅱ-A(作文)				日本語Ⅱ-A(作文)	(次ページへつづく)
				日本語Ⅱ-B(文法・語彙)				日本語Ⅱ-B(文法・語彙)	
				日本語Ⅱ-C(発表討論)				日本語Ⅱ-C(発表討論)	
				日本語Ⅱ-D(専門日本語)				日本語Ⅱ-D(専門日本語)	
				日本語Ⅲ-A(作文)				日本語Ⅲ-A(作文)	
				日本語Ⅲ-B(文法・語彙)				日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	
				日本語Ⅲ-C(発表討論)				日本語Ⅲ-C(発表討論)	
				日本語Ⅲ-D(専門日本語)				日本語Ⅲ-D(専門日本語)	
				医療福祉専門漢字				医療福祉専門漢字	
				医療福祉専門語彙				医療福祉専門語彙	
					兼担 講師	福田 朋晃 (42)	平成29年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	
				日本語Ⅰ-B(文法・語彙)					
								日本語Ⅱ-A(作文)	
								日本語Ⅱ-C(発表討論)	
								日本語Ⅱ-D(専門日本語)	
								日本語Ⅲ-A(作文)	
								日本語Ⅲ-B(文法・語彙)	
								日本語Ⅲ-C(発表討論)	
								日本語Ⅲ-D(専門日本語)	
								医療福祉専門漢字	
								医療福祉専門語彙	

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月			
兼任	講師	茅野 正雄 (50) (つづき)	平成29年4月		兼任	講師	品川 なぎさ (45)	平成29年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	(前ページからのつづき) 申請時の年齢に誤りがあったので修正した(29) 現教員の負担軽減のため、担当科目を整理し、担当教員を兼任で4名(講師2名、助教2名)追加した(29)
									日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	
									日本語Ⅱ-A(作文)	
日本語Ⅱ-B(文法・語彙)										
日本語Ⅱ-C(発表討論)										
日本語Ⅱ-D(専門日本語)										
日本語Ⅲ-A(作文)										
日本語Ⅲ-B(文法・語彙)										
日本語Ⅲ-C(発表討論)										
日本語Ⅲ-D(専門日本語)										
医療福祉専門漢字										
医療福祉専門語彙										
兼任	講師	茅野 正雄 (50) (つづき)	平成29年4月		兼任	助教	山元 一晃 (32)	平成29年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	
									日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	
									日本語Ⅱ-A(作文)	
日本語Ⅱ-B(文法・語彙)										
日本語Ⅱ-C(発表討論)										
日本語Ⅱ-D(専門日本語)										
日本語Ⅲ-D(専門日本語)										
医療福祉専門語彙										
兼任	講師	茅野 正雄 (50) (つづき)	平成29年4月		兼任	助教	加藤 林太郎 (36)	平成29年4月	日本語Ⅰ-A(作文)	
									日本語Ⅰ-B(文法・語彙)	
									日本語Ⅱ-A(作文)	
日本語Ⅱ-B(文法・語彙)										
日本語Ⅱ-D(専門日本語)										
日本語Ⅲ-D(専門日本語)										
医療福祉専門漢字										
医療福祉専門語彙										
兼任	教授	松野 義晴 (51)	平成29年4月							
兼任	教授	高見澤 聡 (53)	平成29年4月							

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	教授	望月 太一 (54)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践) 器官別統合講義Ⅱ(呼吸器)						
兼任	教授	延山 誠一 (HYEON SEONGIL) (玄 誠一) (53)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
兼任	教授	橋本 雅章 (60)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
兼任	教授	三宅 克也 (53)	平成29年4月	正常人体解剖実習						
					兼任	担任教授	木村 伊量 (63)	平成29年4月	現代日本考～政治・経済・社会・文化を理解する道しるべ～	「現代日本考」(自由・1単位)を追加したことにより担当教員を大学院から兼任として配置した(29)
兼任	准教授	大橋 成幸 (45)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
兼任	准教授	稲井 広夢 (41)	平成29年4月	臨床実習Ⅲ(専門) 臨床実習Ⅳ(実践)						
兼任	講師	保川 信行 (43)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
兼任	講師	YANG SUNGHOON 梁 成勲 (46)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
兼任	講師	吉永 隆 (41)	平成29年4月	臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(発展) 臨床実習Ⅳ(実践)						
兼任	講師	戸松 義晴 (63)	平成29年4月	死生学 異文化コミュニケーション						
兼任	講師	百島 祐貴 (63)	平成29年4月	医学史						
兼任	講師	石田 麻子 (51)	平成29年4月	芸術政策論						
兼任	講師	森 長秀 (48)	平成29年4月	法と医療						
兼任	講師	竹本 和彦 (65)	平成29年4月	持続可能な発展						
兼任	講師	Bauer-Lars Frank Wilhelm Achim (27)	平成29年4月	ドイツ語入門(会話含む) ドイツ語応用(会話含む)	兼任	講師	東風谷 太一 (38)	平成29年4月	ドイツ語入門(会話含む) ドイツ語応用(会話含む)	平成29年3月 現勤務先における業務都合により就任辞退(29)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	Silvia Antonia del Socorro Martinez Espinosa (53)	平成29年4月	スペイン語入門(会話含む) スペイン語応用(会話含む)						
兼任	講師	張 佳恵 (51)	平成29年4月	中国語入門(会話含む) 中国語応用(会話含む)						
兼任	講師	崔 誠姫 (39)	平成29年4月	韓国語入門(会話含む) 韓国語応用(会話含む)						
兼任	講師	岡野 賢二 (49)	平成29年4月	ビルマ語入門(会話含む) ビルマ語応用(会話含む)	兼任	講師	岡野 賢二 (49)	平成29年4月	ビルマ語入門(会話含む) ビルマ語応用(会話含む)	現勤務先の業務都合により、一部科目担当変更(29)
					兼任	講師	大澤 幸子 (46)	平成29年9月	ビルマ語応用(会話含む)	
兼任	講師	齋藤 スニサー (46)	平成29年4月	タイ語入門(会話含む) タイ語応用(会話含む)						
兼任	講師	清水 英里 (44)	平成29年4月	ベトナム語入門(会話含む) ベトナム語応用(会話含む)	兼任	講師	小川 有子 (46)	平成29年4月	ベトナム語入門(会話含む) ベトナム語応用(会話含む)	自己都合による就任辞退(29)
兼任	講師	村上 大介 (60)	平成29年4月	国際関係論 英字新聞で読む社会学・政治学	兼任	教授	村上 大介 (60)	平成29年4月	国際関係論 英字新聞で読む社会学・政治学	設置認可申請時は前職に帰があったため兼任としていたが、現在は本学の籍となったため兼任と改めた(29)
					兼任	講師	Vivek Paul Pinto (65)	平成29年4月	英語コミュニケーションA(入門) 英語コミュニケーションB(実践)	英語担当教員の負担を軽減することにより少人数化して学習効果を高めることを目的とし、当該科目に兼任教員を3名追加したものである(29)
					兼任	講師	Christopher Thomson Litten (33)	平成29年4月	英語コミュニケーションA(入門) 英語コミュニケーションB(実践)	英語担当教員の負担を軽減することにより少人数化して学習効果を高めることを目的とし、当該科目に兼任教員を3名追加したものである(29)
					兼任	講師	Buck Eric Carson (32)	平成29年4月	英語コミュニケーションA(入門) 英語コミュニケーションB(実践)	英語担当教員の負担を軽減することにより少人数化して学習効果を高めることを目的とし、当該科目に兼任教員を3名追加したものである(29)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。  
・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。  
・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。  
・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。  
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
160 名	80 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
156	49	57	45	307	127	29	18	19	193	151	47	55	45	298
(147)	(44)	(49)	(37)	(277)						[△5]	[△2]	[△2]	[ ]	[△9]

	設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計
医学科	133 (124)	32 (27)	30 (23)	17 (11)	212 (185)	104	13	12	6	135	127	31	34	18	210
国際医療福祉大学成田病院	4 (4)	0 0	20 (19)	17 (15)	41 (38)	4	0	2	2	8	4	0	17	16	37
国際医療福祉大学病院	5 (5)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	13 (13)	7	5	1	3	16	8	5	1	3	17
国際医療福祉大学船橋病院	5 (5)	0 0	0 0	5 (5)	10 (10)	4	0	0	3	7	4	0	0	3	7
国際医療福祉大学三田病院	6 (6)	12 (12)	4 (4)	4 (4)	26 (26)	5	11	3	4	23	5	11	3	4	23
国際医療福祉大学塩谷病院	3 (3)	0 0	1 (1)	1 (1)	5 (5)	3	0	0	1	4	3	0	0	1	4
計	156 (147)	49 (44)	57 (49)	45 (37)	307 (277)	127	29	18	19	193	151	47	55	45	298

・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	25 名	28 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

## (3) 専任教員辞任等の理由

## (3) - ① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由
1	教授	上野 俊昭	必修	器官別統合講義Ⅷ (脳神経・精神系)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)
			必修	総括講義	①	
			必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①	
			必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	
必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①				
2	教授	桃井 真理子	自由	関連職種連携実習	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)
3	教授	竹田 秀	必修	器官別統合講義Ⅳ (内分泌代謝系)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)
			必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①	
4	教授	岡田 唯男	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
5	教授	市丸 直嗣	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
6	教授	眞島 任史	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
7	教授	松田 義雄	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①	
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
8	教授	小坂 正明	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
9	教授	堀 武生	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
10	教授	横川 徳造	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
11	准教授	田邊 裕貴	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①	
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
12	准教授	長友 祐司	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①	
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
13	准教授	吉内 裕絵	必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)
14	准教授	鳥飼 慶	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①	
15	准教授	宮垣 朝光	必修	総合臨床医学	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)
			必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
16	准教授	中村 京太	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
17	准教授	加藤 容二郎	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	就任辞退：自己都合による就任辞退(29)
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
18	准教授	鈴木 伸嘉	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
19	准教授	内藤 雄一郎	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①	
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①	
20	講師	Htar Htar Soe	必修	国際医療保健学Ⅰ (入門)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)
			必修	社会医学Ⅴ(演習)	①	
21	講師	Nguyen Duy Phong	必修	国際医療保健学Ⅰ (入門)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)
			必修	国際医療保健学Ⅱ (応用)	①	
			必修	国際医療保健学Ⅲ (発展)	①	

22	講師	Butterfield, Jeffrie Leigh	必修	英語Ⅰ(入門)	①	就任辞退：自己都合による就任辞退(29)							
			必修	英語Ⅱ(応用)	①								
			自由	英語コミュニケーションA(入門)	①								
			自由	英語コミュニケーションB(実践)	①								
			必修	医学英語	①								
23	講師	澤本 良子	必修	臨床実習Ⅳ(実践)	③	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)							
24	講師	宮川 麻衣子	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)							
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①								
25	講師	手塚 修一	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)							
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①								
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①								
26	講師	川又 竜	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	③	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)							
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	③								
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	③								
27	講師	吉原 一文	必修	臨床実習Ⅳ(実践)	③	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)							
28	講師	古川 智一	必修	臨床実習Ⅳ(実践)	③	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)							
29	講師	増淵 達夫	必修	臨床実習Ⅲ(専門)	②	就任辞退：自己都合による就任辞退(29)							
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	②								
30	講師	緒方 敦之	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)							
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①								
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①								
31	助教	菅田 陽太	必修	医療入門・正常解剖演習	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)							
			必修	基礎医学総論Ⅶ(組織学演習)	①								
			必修	正常人体解剖実習	①								
32	助教	郡 隆輔	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	就任辞退：現勤務先における業務都合のため(29)							
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①								
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①								
33	助教	瀬川 知	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)							
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①								
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①								
34	助教	金子 真也	必修	臨床実習Ⅰ(基礎)	①	就任辞退：附属病院を自己都合退職したため(29)							
			必修	臨床実習Ⅱ(発展)	①								
			必修	臨床実習Ⅳ(実践)	①								
合計(A)					後任補充状況の集計(B)								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)				
34	人	必修	18	科目	必修	18	科目	必修	0	科目	必修	3	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	3	科目	自由	3	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	21	科目	計	21	科目	計	2	科目	計	3	科目

※②と③は①の内数

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」



(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計 (C)					後任補充状況の集計 (D)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A)				後任補充状況の集計 (B)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
34	人	必修	18 科目	必修	18 科目	必修	0 科目	必修	3 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	2 科目	選択	0 科目
		自由	3 科目	自由	3 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	21 科目	計	21 科目	計	2 科目	計	3 科目

- (注) ・ 就任辞退 (未就任) 及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

現勤務先の都合や自己都合退職に伴い34名の就任辞退や就任時期の遅れを伴う結果となったが、認可後のAC教員審査で25名 (6月伝達7名含む) の補充を行った。なお、実習以外の科目については、後任を選任済みであるか、もともと共同授業であったため影響はほぼないと考えている。臨床実習については、実際の開講は平成32年度以降であり、就任時期の遅れにより教育上の影響が生じるものではないが、今後とも体制の充実を図っていく所存である。また、いずれも開設前の就任辞退であり、学生への影響もないことから、特に周知しない。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

医学部医学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (H29年 4 月)</p>	<p>「臨床実習Ⅳ」の国内での実習については、学生の希望に応じた診療科への配属がなされるよう可能な限り配慮すること。また、海外での実習については、実習先が提供するプログラムの内容や指導体制について、実習調整ディレクターが中心となってあらかじめ調整し、教育の質を確保した上で実施すること。なお、海外での実習先はアジア諸国を中心に調整が進められているが、欧米諸国をはじめとしたより多様な実習先を確保するよう引き続き調整し、学生により多くの選択肢を提供することが望ましい。</p>	<p>留意事項</p> <p>選択制の臨床実習となる「臨床実習Ⅳ」については、学生の希望に応じた配属ができるよう、学生が提出した希望順位に応じて割り付けを行う予定である。受け入れ先としては、平成32年に成田市に開院予定の附属病院も含めた5つの本学附属病院、および臨床実習の受け入れ意思を既に表明している本学の臨床医学研究センター・グループ外の医療機関等だけでなく、さらに受け入れ先の拡大に努め、十分な枠を確保したいと考えている。このうち附属病院等については、平成29年度から臨床実習受け入れについて打ち合わせを始めることについて、平成29年4月末に開催した第1回医学部教授連絡会議で附属病院等で勤務する教授に伝えたところである。今後の予定としては、平成29年度中に各附属病院等との打ち合わせを開始し、平成31年度中に、平成32年度から始まる臨床実習のプログラムを決定する計画である。</p> <p>平成34年度に始まる「臨床実習Ⅳ」の海外臨床実習については、申請時に受け入れの意思表示済みの一部の大学医学部等について、平成29年度留学生特別選抜のため現地を訪問した際、先方の連絡担当者を決した。欧米諸国については、麻酔科に日本の大学医学部から6年生の臨床実習の受け入れ実績があるドイツの医学部において、担当の准教授に受け入れ意思があることを確認した。さらに米国の複数の医学部において、臨床実習への学生受け入れについて調査を行った。今後の予定として、申請時に受け入れの意思表示済みの大学医学部等については、平成29年度の「海外医療体験」の引率を兼ねた現地訪問の際に打ち合わせを開始し、プログラムについて検討を開始するとともに、実習調整ディレクター等の人員配置を行う。今後、新たに開拓する海外臨床実習の受け入れ先については、平成30年度には調査を終了、先方の担当者との打ち合わせを開始し、平成31年度にはMOUを締結した上で実習プログラムの検討を開始し、平成32年度中に実習プログラムを決定、平成33年度に学生の希望調査を行う計画である。(29)</p>	

人体の生理機能を理解するためにシミュレータを利用すると説明しているが、生物実験を体験したことのない学生であっても基礎医学に関する知識や技能を十分に修得できるように、生理学、生化学及び分子生物学など、基礎医学に関する実習を充実すること。

留意事項

すでに1年次1学期における生物学において、生物学未履修者を中心とした学生に対して、顕微鏡を用いた鶏胚の発生を観察を行った。また、1年次2学期には必修の基礎医学総論の5科目で様々な実習を導入予定である。例えば、生化学では生細胞から溶解液を調整し、比色法を用いてタンパク質の定量とさらに酵素活性の定量をおこなう。この過程を通じ、生化学の基本的な手技を習得するとともに、標準曲線の作成、酵素の誘導や特異的発現の観察を通じて対照実験について学ぶ。分子生物学では生体組織からの核酸の抽出、増幅、同定という一連の作業を体験する。この過程でピペットの使い方から核酸の調整法、酵素の取り扱い方、PCR法、ゲル電気泳動など分子生物学の基礎的な手技を習得する。免疫学ではEnzyme-Linked ImmunoSorbent Assay (ELISA) を用いてサイトカイン濃度を測定すると共に抗体の抗原特異性を観察する。(29)

(次頁へ)

<p>(次頁より)</p>	<p>全ての留学生が将来母国のリーダーとして活躍できるよう、母国の政府機関等の推薦を受けていない私費留学生も含め、卒後の進路についての支援体制を充実すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>母国の政府機関等の推薦を踏まえ本学が奨学金を支給する留学生(平成29年度はベトナム、モンゴル、インドネシア、ミャンマー、カンボジアの5か国計13人)及び私費の留学生(平成29年度は韓国、中国、台湾、ミャンマー、米国の5か国・地域計7人)の全ての留学生が本学医学部を卒業後、将来的に母国において医療貢献を行い、ひいては指導者として活躍することができるよう組織的な支援を行っていく。例として、在学中6年次に必修として全員が履修・参加する「海外臨床実習」を通じた本学留学生と母国等の医療機関との橋渡しや、本学が有する海外大学・医療機関等のネットワークを用いて、卒業後に医師としてのキャリア形成ができるようキャリア学習や帰国支援など本学から協力を要請していく、等の活動が含まれる。</p> <p>また、奨学金を支給する留学生については、医師免許取得後、奨学金支給期間の1.5倍程度の期間(以下、義務年限)、本学が指定する日本及び母国の医療機関において医師として勤務することとしているが、義務年限修了後の進路については、留学生と推薦元が相談の上決定することになる。本学は、各国の人的、組織的なネットワークによる支援及び交流を継続的に行う。</p> <p>全ての外国人卒業生が母国において保健医療の各分野でのリーダーとして活躍しながら、我が国の医学や医療制度を学び続けられるよう継続的に支援していく中で、こうした卒業生が本学の留学生の開拓、卒業後のキャリア形成における各国の人的拠点となり、本学の留学生に対する医学教育、卒後支援に持続可能なサイクルを生み出す体制を構築していく。(29)</p>
<p>(次頁へ)</p>			

<p>(次頁より)</p>	<p>医学教育統括センターは、本学の教育目標を達成するために重要な位置付けであると考えられることから、以下の点に留意し、その役割を十分に果たせるよう適切に運営すること。</p> <p>(1)同センターに係る規程等を整備し、コース・ディレクター等センターに配置される職員の役割、責任体制、指揮命令系統等を明確にすること。</p> <p>(2)専任教員25名及び兼任教員15名に加え、事務職員や技術職員等を十分に配置し、多岐にわたる業務を円滑に実施する体制を整えること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>(1)「国際医療福祉大学医学教育統括センター規程」を別紙1の通り整備し、同センターが学長直属の組織であることを明記した。その業務を統括する医学教育統括センター長の役割を明記したほか、コース・ディレクター等の役割、責任体制等を明確にした。</p> <p>15のコースのコース・ディレクターは担当教員から授業計画の提示を受け、指導・助言をする。授業ごとに行われる担当科目の授業アンケートに目を通し、評価に問題があった場合は担当教員と具体的な改善策を話し合うほか、次回の授業を見学して授業評価が向上するまで細やかな支援を行う。</p> <p>(2)医学教育統括センターに専従の3人の事務職員を配置したほか、学務課の教務係・学生係および国際交流センターの事務職員が日常的に業務を支援する体制をとっている。ICT活用など技術面では、本学の情報システム部長であり教育システムの責任者を務めている准教授がe-learningの整備・運用を担当し、講義資料のオンライン提供や出欠管理、授業アンケート等を管理している。さらに、医療情報学が専門の医学教育統括センターの教授が学生などに関して得られたデータの集計・分析を担当している。</p> <p>(29)</p>	
	<p>運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>校地から1,400mのところにある5,600㎡余りの運動場に平成29年4月、テニスコート3面と駐車場、トイレ、シャワー室、ロッカールームが完成し、成田看護学部・成田保健医療学部と共用で利用を開始した。医学部のカリキュラムに体育の科目はないが、今後課外活動などの際に必要な応じマイクロバスなど大学の公用車により学生の利用の便を図る。クラブ活動は成田キャンパスの3学部一体で行うこととし、顧問の教員の活動や外部の施設を利用する場合の補助などを通じ、引き続き大学として課外活動を支援していく。(29)</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

国際医療福祉大学医学教育統括センター規程

(目的)

第1条 医学教育統括センターは、学長直属の組織として医学部に設置し、医学教育について企画・指導及び必要な調整を行うと同時に、学生の情報収集・分析、そして医学教育の研究・情報発信を行い、医学教育の統括と向上を図ることを目的とする。

(医学教育統括センター長)

第2条 医学教育統括センターに、医学教育統括センター長を置く。

2 医学教育統括センター長は、医学教育統括センターを代表し業務を統括する。業務にあたっては医学部長、副医学部長及び学務部長と協議し、業務を遂行するものとする。

3 医学教育統括センター長は、専任の教授のうちから学長の推薦に基づき理事長が任命する。

4 医学教育統括センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(組織・運営)

第3条 センターの行う業務は、別表第1のとおりとする。

第4条 センターに、学長の指名する教員を置く。

2 前項の教員の数は、理事長が別に定める。

第5条 センター長は、前条の教員のうちからコース・ディレクター及び実習調整ディレクターを指名する。

第6条 コース・ディレクターは、別表第1の教育・カリキュラム部門の第1欄、第2欄及び第6欄の業務を主として担当する。

2 コース・ディレクターの数は、別表第1の教育・カリキュラム部門の第2欄に掲げるコースの数とする。

第7条 実習調整ディレクターは、別表第1の教育・カリキュラム部門の第3欄の業務を主として担当する。

2 実習調整ディレクターの数は10人以上とし、そのうち附属病院・関連教育病院担当を6人以上、海外実習病院担当を4人以上とする。

第8条 センター長は、第3条の教員のうちから別表第1のシミュレーション教育部門の業務を担当する者を3人指名する。

第9条 センターにカリキュラム委員会、臨床実習運営連絡協議会及び成績管理・卒業判定委員会を置く。

2 前項の委員会の役割、委員及び開催頻度は、別表第2のとおりとする。

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、常任理事会の承認事項とする。

附則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1 センターの行う業務(第3条関係)

教育・カリキュラム部門																	
1	<p>カリキュラムの策定・評価・改定に関すること。</p> <p>各学生の各授業における日々の成績や授業評価、医師国家試験の結果、その他に関する情報を収集し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに照らして問題の発見、評価、改定の立案を行い、カリキュラム委員会で報告・審議し、PDCA サイクルを推進する。</p>																
2	<p>コースの運営に関すること。</p> <p>各授業が連携を取り合い効率的・効果的に進めるため、類似の授業をまとめて、次に掲げるコースとし、各コースの企画・実施管理・成績集計とその一次判定を行う。</p> <p>【コース】</p> <table border="0"> <tr> <td>① リベラルアーツ（文系）コース</td> <td>⑨ 基礎医学（機能系）コース</td> </tr> <tr> <td>② リベラルアーツ（理系）コース</td> <td>⑩ 産婦人科コース</td> </tr> <tr> <td>③ 外国語系コース</td> <td>⑪ 基礎臨床総合コース</td> </tr> <tr> <td>④ 日本語系コース</td> <td>⑫ 専門臨床コース</td> </tr> <tr> <td>⑤ 医療プロフェッショナルリズムコース</td> <td>⑬ 多職種連携教育（IPE）コース</td> </tr> <tr> <td>⑥ 国際医療保健コース</td> <td>⑭ 社会医学コース</td> </tr> <tr> <td>⑦ 医療面接・身体診察コース</td> <td>⑮ 応用臨床コース</td> </tr> <tr> <td>⑧ 基礎医学（構造系）コース</td> <td></td> </tr> </table>	① リベラルアーツ（文系）コース	⑨ 基礎医学（機能系）コース	② リベラルアーツ（理系）コース	⑩ 産婦人科コース	③ 外国語系コース	⑪ 基礎臨床総合コース	④ 日本語系コース	⑫ 専門臨床コース	⑤ 医療プロフェッショナルリズムコース	⑬ 多職種連携教育（IPE）コース	⑥ 国際医療保健コース	⑭ 社会医学コース	⑦ 医療面接・身体診察コース	⑮ 応用臨床コース	⑧ 基礎医学（構造系）コース	
① リベラルアーツ（文系）コース	⑨ 基礎医学（機能系）コース																
② リベラルアーツ（理系）コース	⑩ 産婦人科コース																
③ 外国語系コース	⑪ 基礎臨床総合コース																
④ 日本語系コース	⑫ 専門臨床コース																
⑤ 医療プロフェッショナルリズムコース	⑬ 多職種連携教育（IPE）コース																
⑥ 国際医療保健コース	⑭ 社会医学コース																
⑦ 医療面接・身体診察コース	⑮ 応用臨床コース																
⑧ 基礎医学（構造系）コース																	
3	<p>臨床実習の運営に関すること。</p> <p>学生に対し臨床実習のオリエンテーションを行う。</p> <p>実習日程や配属先など全般的な事項を企画、臨床実習運営連絡協議会で報告・審議し、実習ディレクター（各附属病院・関連教育病院・海外実習病院の各診療科に所属する臨床実習の責任者をいう。別表第2において同じ。）とともに、屋根瓦方式の教育体制を含む実習計画の立案、準備、実施中の連絡、情報収集、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。</p>																
4	<p>教材の企画・開発及び ICT 活用教育に関すること。</p> <p>共通教材及び教材を配布・閲覧する ICT システム等について、直接企画・開発する。その他、個別の授業教材について、各授業の担当教員や学生による企画・開発を支援する。</p>																
5	<p>臨床実習前の CBT、OSCE、卒業時 OSCE に関すること。</p> <p>医学教育モデル・コア・カリキュラムをもとに、臨床実習前に修得しておくことが必要とされる知識・技能・態度を評価する CBT (computer-based testing)</p>																



	及び OSCE (objective structured clinical examination)、さらには卒業時 OSCE について、シミュレーション教育部門とともに、立案、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、試験の質に関する PDCA サイクルを推進する。
6	成績管理及び卒業判定に関すること。 各学生の各授業における日々の出欠状況及び成績に関する情報を収集し、成績管理・卒業判定委員会で報告・審議し、その結果を代表者会議で報告する。
7	学生相談に関すること。 学生に対し、主に心療内科、精神科等の医師、臨床心理士との連携の下、生活・健康・修学に関する相談窓口を設けるほか、学生の生活・健康・修学に関するパンフレットやウェブサイトを作成し、学生への周知を行う。さらに、各学生の各授業における出欠状況及び成績の情報、生活・健康・修学に関する情報収集を行い、問題の早期発見・早期介入を行う。
8	FD・SD の企画・運営に関すること。 教職員のニーズや授業評価等、学生の授業に対するニーズに関する情報収集を行い、教職員研修の立案、教材作成、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。
9	入学者選抜の管理に関すること。 学外の情報収集、アドミッション・ポリシーに則った入学者選抜に関する企画立案を行い、入学試験システム委員会に提案する。また、学生の入学後の修学・成績状況、卒業後の進路等の情報を収集し、選抜制度の見直しを行う。
10	多職種連携教育に関すること。 学内の他学部・学科の教職員との連携の下、他学部・学科の授業に関する情報や関連学術会議等の情報を収集し、本学の多職種連携教育に関する授業等の立案、準備、実施、事後の評価、再立案を行い、PDCA サイクルを推進する。
11	学外の医学教育の情報収集に関すること。 各業務及び大学の方針への反映に資するため、国内外の他の医科大学、他の医療専門職の教育機関等による発信情報、及び学術会議、全国医学部長病院長会議、医師会等の非政府機関による医学教育に関する方針、さらには文部科学省、厚生労働省、内閣府等の政府・行政機関、WHO、WFME 等の国際機関による医学教育に関する政策等の情報を収集し管理する。
12	医学教育の IR に関すること。 将来的に各ポリシーをはじめとする医学教育全般及び大学全体の運営方針の改善に資するため、各学生の入学から在学中、卒業後の進路等に関する情報を収集、分析し管理する。
13	医学教育の研究に関すること。 本学の医学教育に関する種々の試みを実証し、国内外の医学教育の質向上に資するため、センターの全教員及び一部の職員は、担当する業務に応じた研究課

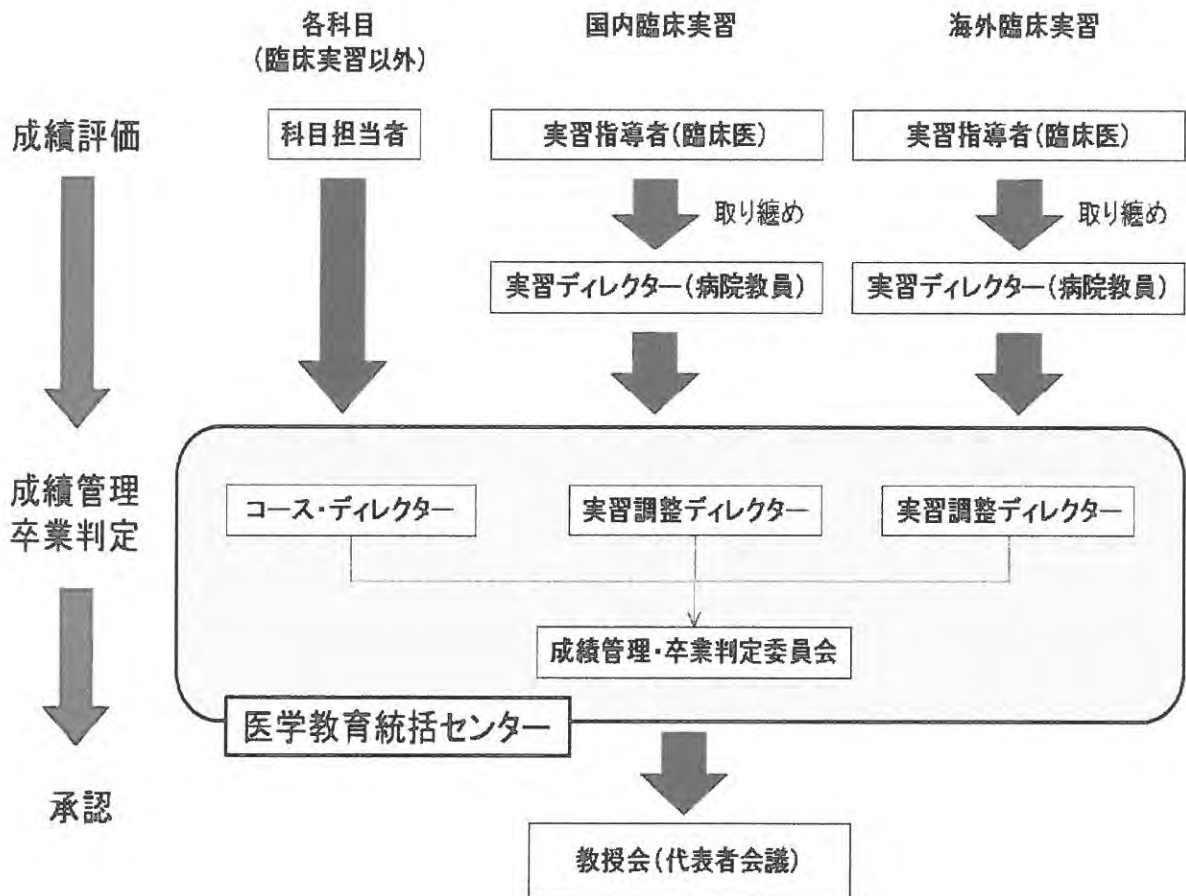
	<p>題を設定し、研究の進捗状況を共有する。一方、次に掲げる国内外の医学教育に関する学術団体に所属し情報収集に努め、これらの学術集会、学術雑誌等に研究成果を発信する。</p> <p>日本医学教育学会、日本シミュレーション医療教育学会、日本医学英語教育学会、日本保険医療福祉連携教育学会、医療系全国eラーニング交流会、AMEE（欧州医学教育学会）、AAMC（米国医科大学協会）、APMEC（アジア太平洋医学教育学会）等</p>
14	<p>医学教育の情報発信に関すること。</p> <p>医学教育の質向上及び説明責任を果たすため、学内の学生、教職員、及び国内外の社会を対象として、ウェブサイト、SNS、その他の手段により、センターの業務に関する情報を発信する。</p>
15	<p>その他、医学教育・カリキュラムに関すること。</p>
シミュレーション教育部門	
1	<p>シミュレーション教育に係るカリキュラムの策定・評価・改定に関すること。</p> <p>シミュレータや模擬患者等を活用する総合教育、専門教育の授業等の策定・評価及び改定を行う。</p>
2	<p>シミュレータの選定・管理に関すること。</p> <p>国内外の医療系教育機関及び学術集会等でシミュレーション教育やシミュレータの情報を収集し、シミュレータの選定及び故障時や消耗品等の管理を行う。</p>
3	<p>模擬患者（SP）の養成に関すること。</p> <p>学外の地域住民等と連携し、模擬患者の養成、登録、研修、及び模擬患者参加型授業やOSCE等の試験を担当する教職員へのFD・SDを実施した上で、各授業への派遣を行う。</p>
4	<p>その他、シミュレーション教育に関すること。</p>

別表第2 委員会の役割、委員及び開催頻度(第9条関係)

カリキュラム委員会	
役割	カリキュラムの策定・実施・評価・改定に関する重要事項を審議
委員	センター長（委員長） コース・ディレクター 実習調整ディレクター シミュレーション教育部門の担当教員 その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上
臨床実習運営連絡協議会	
役割	臨床実習の運営に関する重要事項の審議、連絡調整等
委員	センター長（委員長） 実習調整ディレクター 実習ディレクター 附属病院長 その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上
成績管理・卒業判定委員会	
役割	成績管理・卒業判定に関する重要事項を審議 同委員会で、別紙のフローに従い、各学生の成績や卒業の判定について協議を行い、教授会の承認を得る。
委員	センター長（委員長） コース・ディレクター 実習調整ディレクター その他センター長が指名する教職員
開催頻度	年3回以上

成績管理・卒業判定のフロー(別表第2 関係)

医学教育統括センター 成績管理のフロー



6 留意事項等に対する履行状況等

成田看護学部看護学科

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時  (27年7月)</p>	<p>・人間をライフステージや発達課題からとらえ、その上で人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察能力、判断能力を強化する「人間理解（こころとからだ）系」科目群は、学部配置科目となっており、他学科の共通の内容となっているが、看護学の修得に非常に重要な科目群であると思われる。そのため、他学科と共通の内容とするのではなく、看護学の修得を前提とした適切な内容に改めることを検討すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>成田看護学部は単科の学部であり、学部設置科目＝看護学科だけの開設科目である。したがって左記指摘のように看護学部の専門基礎科目を他 学部学生が履修することはない。 また、この科目は看護学部学生のための科目とし、看護学の視点で内容を構成している。 さらに、入学する学生が上記について理解できるように学生便覧および履修の手引き、担当アドバイザーからの履修指導や教務委員会からのカリキュラム説明などを通して周知も徹底している。(28)</p>	
<p>設 置 時  (27年7月)</p>	<p>・養成する人材の「6つの能力」の⑥に「基礎的研究力を修得する」とあるが、教育課程には研究力を培う授業科目が見受けられない。そのため、研究力を培う授業科目を配置するか、プロジェクト科目の内容を研究力を培う内容に改めるなどの検討をすること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>「基礎的研究力を修得する」ため、「エビデンス・ベーストプラクティス（研究と文献）」「読む技術・伝える技術」「行動科学とモチベーション」「問題解決とアイディアイノベーション」「プレゼンテーション技法」などの科学的思考、問題解決力、研究の基礎的な能力を高めるための科目を複数設けている。 これらの科目は、それぞれ、アクティブラーニングを取り入れ、学生が思考しながら学ぶ方法を用いる。 また、2年次から「プロジェクト」科目を設けて、テーマを決めて取り組むことにより、研究的基礎力を育成する計画である。(28)</p>	
<p>設 置 時  (27年7月)</p>	<p>・本学部の特徴として「国際性」を挙げているが、教育研究上の到達目標にそれらが反映されていないように思われる。そのため、グローバルな活動ができる看護専門職の育成にふさわしい教育内容であることが明確になるよう、授業科目や講義内容を追加することなどの検討をすること。(成田看護学部)</p>	<p>留意事項</p>	<p>本学部の特長の一つとしてグローバルに活躍する人材を育成することを挙げている。本学部の考えるグローバルとは、日本を含む、多様な国の人々を地球市民としてとらえ、一人ひとりのもっている文化や地域性、価値観を理解した上で必要な支援のできる能力を育成することである。そのため、異文化理解のためのカリキュラムと国際的な視野を養う実践的カリキュラムを用意している。 科目として、「世界の中の和文化」、「新聞で見た日本と世界」「海外保健福祉事情Ⅰ・Ⅱ（講義・実習）」「国際医療通訳入門」「異文化体験実習」、「国際医療保健学」「外国語（英・独・西・仏・中・韓・タイ・ビルマ・ベトナム）」の他、「国際看護学Ⅰ・Ⅱ」「海外看護研修」「国際看護研修」等の科目では、国際看護学分野の専任教員、実務家を中心となり、本学部の教員が連携して学習を支援していくものであり、特にJICAや国際協力機関などと連携して学ぶ、実践・体験型プログラムで学ぶように計画している点は、グローバルな活動ができる看護専門職の育成にふさわしい教育内容であるといえる。(28)</p>	
<p>設 置 時  (27年7月)</p>	<p>・保健師課程の選抜方法や人数制限等の詳細が不明確であることから、学生に対しては、選抜方法等を具体的に周知すること。(成田看護学部)</p>	<p>留意事項</p>	<p>学生便覧、履修の手引き等の中に保健師課程に関するページを設け、選抜方法、人数制限等について学生に周知徹底する。 また、履修オリエンテーションなどの際に時間を設け、左記指摘事項に関し遺漏のないよう周知する。</p>	

<p>設置時</p> <p>(27年7月)</p>	<p>・遠隔地での実習施設が多いように見受けられることから、実習施設内での学習環境の整備が重要であると考えられる。そのため、実習施設内での学修環境の整備が十分な計画となっているか検討し、必要に応じて充実させること。(成田看護学部)</p>	<p>留意事項</p>	<p>成田看護学部の開設にあたっては、その目的の一つとして千葉県内の看護師の不足を補うことが成田看護学部の開設目的の一つとして挙げている。</p> <p>この目的を達成するためにも、臨床実習は、原則、県内の近隣の医療施設等を中心に行う。</p> <p>また実習や科目の特性においては、学生の同意のもと、県外にある本学の附属病院、関連病院で実習を行う。この場合、宿泊先や学修スペースなどに十分に確保しており、学生に負担を強いることはない。(28)</p>	
<p>設置時</p> <p>(27年7月)</p>	<p>・実習助手の採用基準と決定方法、実習助手に対するFDに関する記載がないため、これらが計画されていないのであれば、具体的な計画を定めること。(成田看護学部)</p>	<p>留意事項</p>	<p>実習助手の採用基準は、看護師免許を有し、大学を卒業後、3年以上当該専門領域の臨床経験を有する者とする。また専門学校および短期大学卒業で優れた臨床実践能力をもつ者については、5年以上臨床経験を有する場合に限り、実習助手として採用する。またリプロダクティブヘルス看護学領域（母性看護学）の実習助手については、上記の条件を満たし、看護師および助産師免許を有している者、まちづくり・公衆衛生看護学領域（公衆衛生看護学）の実習助手については、上記の条件を満たし、看護師および保健師免許を有している者とする。</p> <p>実習助手は、大学における実習指導を行った経験を有することが望ましいが、指導経験がない場合は、実習指導に関する基礎的な知識、技術について学内にて下記のような研修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育目的、目標、実習の位置づけ、展開方法、学生のレディネスなどを説明する。</li> <li>2) 実習助手として、学生を指導する目的、方法について</li> <li>3) 学習への取り組みと動機付けについての指導者の役割</li> <li>4) 実習の評価の目的と方法について</li> </ol> <p>加えて担当する実習場所での実地研修を行い指導にあたることとする。なお、具体的な職務内容は、当該科目の担当教員の指導の下、グループを担当して学生の指導を行う。実習助手が行う実習指導の責任は、その指導を担う教員とする。(28)</p>	

<p>設 置 時</p> <p>(27年7月)</p>	<p>・大学設置基準第10条第1項では、主要な授業科目については原則として専任の教授又は准教授に担当させることを原則としているが、本学の教育課程を見ると、看護学の体系性や学科設置の趣旨から主要と思われる授業科目に専任の教授又は准教授が配置されていない例が散見される。そのため、以下の指摘を踏まえ、担当教員の充実に努めること。</p> <p>(成田看護学部)</p> <p>(1) 「まちづくり・公衆衛生看護学」に関する5科目、「在宅・生活デザイン看護学」に関する6科目については、いずれも1名の講師・助教が担当することとなっている。設置の趣旨には、「高齢社会の到来に伴う医療やケアニーズの高まりに対応して、…地域・在宅における訪問看護、介護老人保健施設、老人福祉施設における看護師の需要が高まっている」とうたわれており、これらの科目は、人材養成の中核的な科目であると思われるが、担当教員は講師・助教であることから、設置の趣旨に即した十分な教育が行われるか懸念がある。そのため、中核的な科目については、担当教員の充実に努めること。</p> <p>(2) 精神看護学及び公衆衛生看護学を担当する教授と准教授が不在である。これらは主要な看護専門科目であることから、専任の教授又は准教授を配置すること。</p> <p>(3) 「こども・子育て看護学」の科目区分(5科目)については、准教授は配置されているものの、科目区分全体で教授が配置されていない。そのため、教授を配置しない体制で適切な教育が行えるか検討し、必要に応じて教授を配置するなど、教育体制のさらなる充実に努めることが望ましい。</p>	<p>留意事項</p>	<p>(1) について 「まちづくり・公衆衛生看護学」を担当する教授の採用を決めており、2017年4月から着任予定。また准教授、講師、助教についても2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。</p> <p>(2) について 「在宅・生活デザイン看護学」を担当する教授、准教授については2017年4月からの着任を目指して教員の選定を行っている。また、「精神看護学」を担当する教授、准教授についても2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。</p> <p>(3) について 「こども・子育て看護学」を担当する教授、講師については、2017年4月の着任を目指して教員の選定を行っている。(28)</p>	
<p>設 置 時</p> <p>(27年7月)</p>	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(言語聴覚学科、医学検査学科、成田看護学部)</p>	<p>留意事項</p>	<p>今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。(28)</p>	

設置計画履行状況 調査時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一貫の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系的性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）	改善意見	科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再接計を行い、年度開始時のオリエンテーションにおいての履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した（29）
設置計画履行状況 調査時 (29年2月)	・担当科目が著しく多い専任教員がいることから、教員の専門性と科目内容の整合性に留意しつつ、負担が偏らないように適切な教員組織編制となるよう改善すること。また、オムニバス科目は各担当教員の専門性を踏まえた上で、各専門領域を十分に教授できるように検証し、充実することが望ましい。（理学療法学科、成田看護学部）	改善意見	負荷軽減を考慮し、科目担当の再編成を実施した。オムニバス科目についても、各教員の専門性を考慮した分担を検討し、より充実した科目運営の実現を図った（29）
設置計画履行状況 調査時 (29年2月)	・保健師課程を履修できる学生の選抜方法や選抜基準が曖昧であり、必要な情報が適切に周知されていないため、学生に不利益が生じる可能性がある。選抜方法や前提科目の履修など要件を周知するとともに、適切な履修指導を行うこと。	改善意見	学生便覧中にある保健師課程の履修についての説明文章を再度見直し、学生が正確に情報を取得できるよう修正した。また、年度開示のオリエンテーションでも1年生、2年生それぞれに内容説明を実施し、履修指導とした。（29）
設置計画履行状況 調査時 (29年2月)	・届出時においては、1年次の実習科目から実習助手を配置する計画が示されているが、調査時点においては、実習助手が配置されていない状況である。学年進行に応じて臨地実習の対象学生数や対象期間が増えることを踏まえ、実習助手の確保は重要となる。報告書に示された要件を満たした実習助手の確保を図るとともに、担当教員との連携やFDへの参加等により実習助手の能力向上に努め、当初計画に基づく実習指導体制を担保すること。	改善意見	平成29年度においては5月1日時点で既に1名の実習助手の採用が決定しており、同年度中にさらに追加で2～3名の実習助手を採用する計画を進めている。採用された実習助手に対しては、定期的の実習運営のための打合せを実施する他、看護学部にて実施する勉強会への参加を促すことで能力向上を図る。（29）
設置計画履行状況 調査時 (29年2月)	・成田看護学部看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見	設置申請以降、教授3名、准教授1名、講師1名、助教1名が新たに採用となっており、このうち教授1名を除く5名が完成年次に退職年齢を越えない構成となっている。学年進行に合わせ継続的に教員組織の拡充を図るとともに、学部内でのFD活動に若手教員の育成を推進する。（29）

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の審附行為又は審附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）



## 6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部理学療法学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (27年7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(理学療法学科)</li> </ul>	留意事項  各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)	
設 置 時  (27年7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(理学療法学科)</li> </ul>	留意事項  「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)	
設 置 時  (27年7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床実習の参加要件が「4年次の実習への学生の参加要件は、3年次までの必修科目を全て修得していることを条件としている。」とあるのみであるが、実習参加の水準が確保されるよう、客観的臨床能力試験の実施等について検討すること。(理学療法学科)</li> </ul>	留意事項  OSCE、CBTの導入を視野に入れた対応を行う。(28)	
設 置 時  (27年7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主として専門科目を教授する教員において、多数の授業科目を担当する教員がいるなど、一部の教員に負担が偏っているように思われることから、教員の負担について検討し、必要に応じて負担が偏らないよう教員組織編制を適切に改めること。なお、教員の負担の検討に当たっては、職位のレベルに応じた負担ともなるよう考慮すること。(理学療法学科)</li> </ul>	留意事項  講師以上の教員採用を準備中。(28)	

<p>設置計画履行状況 調査時 (29年2月)</p>	<p>・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）</p>	<p>改善意見</p>	<p>科目の順序性が担保できるような履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおける履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるような履修指導を実施した（29）</p>	
<p>設置計画履行状況 調査時 (29年2月)</p>	<p>・担当科目が著しく多い専任教員がいることから、教員の専門性と科目内容の整合性に留意しつつ、負担が偏らないように適切な教員組織編制となるよう改善すること。また、オムニバス科目は各担当教員の専門性を踏まえた上で、各専門領域を十分に教授できるように検証し、充実することが望ましい。（理学療法学科、成田看護学部）</p>	<p>改善意見</p>	<p>負荷軽減を考慮し、科目担当の再編成を実施した。オムニバス科目についても、各教員の専門性を考慮した分担当を検討し、より充実した科目運営の実現を図った（29）</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 6 留意事項等に対する履行状況等

### 成田保健医療学部作業療法学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(作業療法学科)	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(作業療法学科)	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・臨床実習の参加要件が「4年次の実習への学生の参加要件は、3年次までの必修科目を全て修得していることを条件としている。」とあるのみであるが、実習参加の水準が確保されるよう、客観的臨床能力試験の実施等について検討すること。(作業療法学科)	留意事項 OSCE、CBTの導入を視野に入れた対応を行う。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・主として専門科目を教授する教員において、多数の授業科目を担当する教員がいるなど、一部の教員に負担が偏っているように思われることから、教員の負担について検討し、必要に応じて負担が偏らないよう教員組織編制を適切に改めること。(作業療法学科)	留意事項 准教授1名を採用済、教員の負担軽減に対応。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・養成すべき人材像で強調されている地域・地域包括ケアに関する教授内容について、関連する授業科目名からはその全体像が学生に伝わりにくいと思われることから、教授内容が学生に具体的に伝わるよう、科目名称等の工夫を検討すること。また、必修科目である「地域ケアシステム実習」に対応する講義科目が不明確であるので、演習科目に対応する講義科目があることが明確になるよう、該当する科目名称を変更するか講義科目を追加するなどの修正をすること。(作業療法学科)	留意事項 科目名称の変更にて対応。 「地域ケアシステム実習」 ⇒「地域生活支援システム実習」 なお、同科目に対応する講義科目としては、「地域生活支援論」という科目を配置している。(28)	

<p>設置計画履行状況 調査時 (29年2月)</p>	<p>・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）</p>	<p>改善意見</p>	<p>科目の順序性が担保できるような履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおける履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるような履修指導を実施した（29）</p>	
<p>設置計画履行状況 調査時 (29年2月)</p>	<p>・成田保健医療学部作業療法学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>設置申請時より追加で准教授の1名を採用している。今後も継続して若手教員の採用を検討するとともに、学科内での教員指導体制の充実を図る（29）</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部言語聴覚学科

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年7月)	・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(言語聴覚学科)	留意事項 各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・専門基礎科目における選択科目の一部科目において、1から4年次のいずれでも履修を可能としているような、配当年次に幅を持たせた科目があるが、体系的な学修の前提となる学修の順序性が配慮されていない懸念がある。そのため、体系的な学修の観点から選択科目の配当年次の設定について再度検討を行い、必要に応じて配当年次を見直すこと。(言語聴覚学科)	留意事項 「2 授業科目の概要」に記載したとおり、変更対応。(28)	
設 置 時 (27年7月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。(言語聴覚学科)	留意事項 今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。(28)	
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期(1、2年次)に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。(理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部)	改善意見 科目の順序性が担保できるよう履修モデルおよび履修系統図の再検討を行い、年度開始時のオリエンテーションにおける履修モデル、履修系統図の提示や、配当年次が複数設定されている科目については履修推奨年次を設定するなど体系的な学修が可能となるよう履修指導を実施した(29)	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を( ) 書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

6 留意事項等に対する履行状況等

成田保健医療学部医学検査学科

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時  (27年7月)</p>	<p>・卒業要件単位数が124単位であるにもかかわらず、全ての履修モデルが124単位を超える単位数で作成されていることから、学生に誤解を生じさせるおそれがある。そのため、人材養成の方針に整合しつつ124単位で卒業する形の履修モデルを新たに作成すること。(医学検査学科)</p>	<p>留意事項</p>	<p>各学科124単位で卒業する形の履修モデルを作成し、学生に周知する。(28)</p>	
<p>設 置 時  (27年7月)</p>	<p>・履修モデルによると、1年次前期に38～39単位の修得することになっている。CAP制は導入されているものの、半期に38～39単位の履修では実質的な学修時間が確保されない懸念がある。そのため、このような科目履修をしても学生に適切な学修時間を確保させることができるか検討し、必要に応じて履修モデルまたは授業科目の配当年次を修正すること。なお、導入されるCAP制は年間の上限を「50単位未満」としているが、履修モデルでは1年次の合計単位数がCAP制への算入除外科目(海外保健福祉事情Ⅰ及びⅡ)を考慮しても50～51単位になりCAP制の定めと整合しないと思われることから、学生に示す際に整合するよう修正すること。(医学検査学科)</p>	<p>留意事項</p>	<p>「2 授業科目の概要」に記載したとおり、1年前期の数科目を1年後期に廻し、前期と後期とのバランスをとるように変更した。(28)</p>	
<p>設 置 時  (27年7月)</p>	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想について検討すること。(医学検査学科)</p>	<p>留意事項</p>	<p>今回の採用では、カリキュラム等の特性上、定年年齢の教員を採用した。今後、採用する教員については、学部の継続的な発展を踏まえ、原則、完成年度において退職年齢を超えることのない50歳代以下の教員を中心に選考を行っている。(28)</p>	

<p>設置計画履行状況 調査時 (29年2月)</p>	<p>・「専門基礎科目」のうち、配当年次を複数年設定している科目があるが、早期（1、2年次）に修得すべき内容の科目や、順序性が担保できていない科目が見受けられる。また、既に配付されている履修モデルと授業科目の一覧の配当年次に不整合も見受けられる。科目の体系性を考慮した配当年次を設定するとともに、正しい履修モデルの提示や履修指導により、効果的な教育課程が履修できるよう工夫すること。（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、成田看護学部）</p>	<p>改善意見</p>	<p>年度開始時の履修指導および履修モデルの提示により、体系的な学修が可能となるよう学生指導を実施している（29）</p>	
<p>設置計画履行状況 調査時 (29年2月)</p>	<p>・成田保健医療学部医学検査学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>設置計画時点から追加で3名の教員採用（准教授2名、助教1名）が済んでいる。さらに現在講師、助教の公募を行っており、教員組織の充実を図っている。完成年次以降の学科運営に支障がないよう教員組織編制を構想している。（29）</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

### <医学部 医学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>(1)C. 使用する教科書等の教材</p> <p>「AccessMedicine (アクセスメディシン)」という電子教材集を採用する予定である。これらは紙の書籍に比べ頻繁にコンテンツの更新が行われるため、記載されている情報の信頼性は高く、PubMedなど医学文献データベース等への関連情報へのアクセスも容易で、利便性も極めて高いと評価されている。さらに、これ以外に必要な参考図書についてもeテキストとして閲覧・学習が可能な環境を整備する。学内全域に無線LAN環境が整備され、学生は授業中や自主学習において、個人のタブレットやPCからこれらのコンテンツにいつでもアクセスでき、また、本医学部で選定された電子書籍プラットフォームについてはその費用を本学で負担し、学生へ負担を求めない予定である。</p> <p>(2) 履修指導方法</p> <p>1学年140人を35人ずつ4クラスに分け、各クラスに講師・助教等の若手教員を学生相談教員として配置し、学生の履修指導を行うとともに、生活面の相談に応じる。</p>	<p>当初導入を予定していた「AccessMedicine (アクセスメディシン)」に加え、「ClinicalKey」という電子教材集を採用した。これは、1年次の授業科目の教科書として指定された書籍のうち、7点(約6万5千円相当)がこの「ClinicalKey」に含まれることが判明したことが契機である。追加の導入となったため、学生には1人当たり9千円程度の負担をお願いしたが、個別に書籍で購入する場合に比べ学生にとっての実質的な負担は大幅に小さくなる。また、「ClinicalKey」の導入により参照できる電子書籍やジャーナルが飛躍的に増大したため、教育の質の向上に大きく寄与している。</p> <p>きめ細やかな指導を徹底するため、1学年を7人ずつの20グループに分けることとした。また、経験豊富な教授クラスの教員も若手教員と組み合わせの上、相談教員として配置した。さらに、相談教員の統括担当者を配置し、医学部全体の学生情報や相談ノウハウの共有を図っている。</p>

- (注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>学則に基づき大学としてFD委員会を置き、成田キャンパスには「成田キャンパスFD委員会」を設置している。(別紙2「国際医療福祉大学FD委員会規程」)</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>平成28年度は成田キャンパスのFD委員会を11回開催した。29年度は医学部、成田看護学部、成田保健医療学部合同で11人の委員によるFD委員会を既に1回開催し、医学教育統括センター長が副委員長を務めている。医学部独自にもFD活動を展開する。</p> <p>委員会は、原則毎月1回、第3木曜日に開催される。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>成田キャンパスおよび医学部のFD委員会は、研修会の開催などによる教員の資質向上、授業アンケートの実施などを審議する。</p>	<p>(次のページへつづく)</p>
---	--------------------



## ② 実施状況

## 1. 成田キャンパスとしての取り組み

平成29年2月に第1回成田キャンパス合同FD研修会を開催し、本学の開学以来の特徴的カリキュラムである「関連職種連携教育」をテーマに講演やグループ討議を行った。51人の教員が参加し、開設前の医学部からも医学教育統括センター長予定者が参加した。29年度も合同でFD研修会を開催することになった。

28年度後半には毎週1回、教職員を対象に英語教員による「英語力向上FD/SDワークショップ」を開催した。学科ごとのFDの取り組みについては随時、FD委員会に報告して共有している。

## 2. 医学部独自の取り組み

## a 実施内容

- ①平成29年2月に医学部開学前のFDを開催した。
- ②開学後は4月12日より毎週、ミニFDを開催している。
- ③教員相互に授業を参観する取り組みを始めている。

## b 実施方法

- ①開学前のFDは、事前課題として参加者がそれぞれ準備した10分間の英語による授業のプレゼンテーションを通し、本学の教育方針であるアクティブ・ラーニングを体験しながら理解を深めた。また、英語による授業の注意点をお互いから学んだほか、e-learningの説明、カリキュラムや学生サポートのあり方などが紹介された。
- ②開学後のミニFDは、海外経験の豊富な日本人教員や外国人教員がそれぞれ講師役を務め、模擬授業などによりアクティブ・ラーニングなどの教育方法を互いに学んだ。
- ③教員が教室で相互に授業を参観するほか、大講義室で収録した授業を視聴する方法も今後活用していく。

## c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ①開学前のFDは同じプログラムを2日間用意し、医学部の教授・准教授・講師・助教として着任予定の計46人が両方あるいはいずれかの日に参加した。
- ②開学後のミニFDは毎週水曜午後に開催し、40人前後が参加している。
- ③授業の参観は医学部長を含む医学教育統括センターの教員、コース・ディレクターなどを中心に行っている。

## d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ①開学前のFDは参加者の授業準備に効果を上げた。参加者以外の教員にも広く内容を周知し、研鑽に生かした。
- ②毎週のミニFDでは講師役と受講者双方のスキル向上を目指している。
- ③授業を参観した感想を担当教員に伝えることにより、下記の学生による授業アンケートと合わせて授業内容や講義手法の迅速な改善につなげている。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

## a 実施の有無及び実施時期

授業開始とともに実施している。アンケートは種類に応じて、授業ごとに実施、科目ごとに全講義終了時に実施、学期末の実施となっている。

## b 教員や学生への公開状況、方法等

全ての必修科目および大部分の選択・自由科目の授業について、同じ日に同じ教員が続けて複数時限を担当する場合を除き、毎時限、学生による授業アンケートを実施している。

アンケート項目は国内外の文献を参考とした10項目で構成され、授業担当教員を特定し、「学習の促進」「学習意欲の亢進」等に及ぼす効果について6段階評価で尋ね、最後に自由記載を求めている。

これまでに、大講義室で140人を対象とする授業、30～35名の少人数を対象とする授業に関わらず、学生が比較的効果的であると評価した授業とそうでないと評価した授業が実施されていることが明らかとなった。

これらの情報については、医学教育統括センター内に設置した「教員サポート会議」で共有し、組織的な授業の質向上について取り組む予定である。

さらに、今後「科目アンケート」、「学期末アンケート」をそれぞれ実施する予定である。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

##### 1. 学部・学科等の特色について

基礎・臨床統合カリキュラムについては、更なる充実のため、科目担当者である診療科主任教授を中心とする会議を開催した上で、申請時を上回る教員体制を整備するため、追加教員を順次、申請している。医学教育シミュレーションセンターについては、計画どおり、先行する第Ⅰ期棟(WB棟)4階部分を竣工させ、授業準備を整えた。

さらに平成29年12月に竣工予定の第Ⅱ期棟(WA棟)4階部分については、予定どおり工事が進み、3学期の授業で使用する準備が整っている。英語による医学教育についても、外国人を含む着任済みの教員により、診療能力を養うものを含め、既に複数の授業科目を開始している。海外の臨床実習の準備状況については、留意事項に関する別項で説明した。医学教育統括センター」を学長直属の組織として設置し、学生オリエンテーションを実施した。また、e-learningシステムの運営、学生支援室の設置、学生相談教員との連携による学生サポートの開始、コース・ディレクターとの連携による授業アンケートに基づく教員サポートの開始、アクティブ・ラーニングに関するFD等を実施した。さらには、医学教育に関する研究について国内外の学会での発信のため演題登録を行い、科学研究費補助金に採択される等、様々な業務を開始している。

公衆衛生専門職大学院の設置については、医学専攻博士課程とともに医学研究科を構成する公衆衛生学専攻修士課程として設置申請を行っており、まず、早期設置を目指した後に専門職大学院としての改組を検討することとした。国際医療人材トレーニングセンターおよび感染症国際研究センターについては、成田市に建設中の附属病院の開院に合わせた設置を準備中である。

##### 2. 教育課程の編成について

1コマ60分授業で設置の趣旨どおり授業を開始している。授業科目については、日本語で実施する旨申請した、総合教育科目の人間系・社会系・全地球的な課題の授業科目のうち2科目について英語を多用する授業に変更し、さらに英語を多用する自由科目を1科目追加した。英語を多用する人間系・社会系・全地球的な課題の授業は、留学生だけでなく日本人学生も受講しており、設置の趣旨を上回る教育課程の編成が実現している。

また、留学生への配慮として、専門基礎科目を含め、日本語で実施している授業科目についても、予習課題や授業資料、授業中の説明を英語で追加したり、一部英語による補習を行ったりしている。英語教育については、入学直後のオリエンテーションでTOEFL-ITPを実施し、その結果で「英語Ⅰ(入門)・Ⅱ(応用)」を能力別に4クラスに分け、授業を実施しているほか、自由科目の「英語コミュニケーションA(入門)・B(実践)」については、留学生7人を含む108人が、グループに分かれて受講している。同じく自由科目である「海外医療体験」には、現在30人が受講の意思を表明した。

医学教育モデル・コア・カリキュラムとの対応関係については、平成28年度改訂版が公表されたため、本学カリキュラムとの対応関係を確認し、適用される学年の学生の教育に反映させたいと考えている。カリキュラムマップについては、各授業科目と、建学の精神、アドミッション・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーとの関連、さらには英語を多用する授業の実施や授業科目相互の関連を、より明確にする「履修系統図」を作成し、学生に示したほか、授業科目のシラバスには、ディプロマ・ポリシーに加えて、卒業時コンピテンシーとの関連を明示した。

使用する電子教材については、設置の趣旨に記載した「Access Medicine」に加えて「ClinicalKey」を追加して採用し、学内全域の無線LANからアクセスできるほか、VPN接続により、自宅からのアクセスも可能とした。入学案内に推奨するタブレットPCを明示し、学生の多くは、このタブレットPCを用いてこれらの電子教材にアクセスし、授業中や授業外学習で利用している。学力不振者の発生を未然に防ぐため、前述した英語のクラス分け、自由科目の履修以外に、授業内で実施しているレポート、中間試験の結果等の情報を迅速に収集し、科目担当者および学生相談教員との面談を早期実現する等、対応を開始した。

##### 3. 入学者選抜について

1-(5)-②の平成29年度入学者の選抜状況について述べる。募集人数100人の一般入試には、2,769人が志願し2,655人が受験した。一次選考で選抜した569人に対して、アドミッション・ポリシーに合致した入学者を選抜するために、書類選考および30分の面接試験を2回実施した。これらの学力だけでは測ることができない人物も加味した二次選考により、130人の正規合格者と219人の補欠候補者を選抜した。一方、募集人数20人のセンター試験利用入試には、624人が志願し618人が受験した。一次選考で選抜した231名に対して、一般入試と同様の二次選考により、21人の正規合格者と39人の補欠候補者を選抜した。

さらに、募集人数20人の留学生特別選抜入試には、85人が志願し83人が受験した。一次選考で選抜した33人に対して、筆記試験および小論文試験、面接試験等からなる二次選考により、18人の正規合格者と8人の補欠候補者を選抜した。以上、一般入試とセンター試験利用入試から120人、留学生特別選抜入試から20人の入学者を選抜した。

以上、1~3より、設置の趣旨・目的については、一部、記載事項を上回る達成状況となっている。

(次のページへつづく)

(次のページからのつづき)

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

大学全体として平成29年度に、27～28年度を対象期間として3つのポリシー点検とPDCAサイクルの構築を中心に自己点検・評価を行う。29年末までに点検を終え、報告書を公表することを目指している。

b 公表方法

大学ホームページに掲載するほか、関係する自治体・図書館・他大学などに報告書を配布し本学への外部からの意見の収集に努める。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受ける予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 ( 有 ・ 無 )

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） ( 平成29年5月31日 )

国際医療福祉大学 FD 委員会規程

(設置)

第1条 国際医療福祉大学学則第11条に基づき、本学にFD統括委員会（以下「統括委員会」という。）を置く。

2 各キャンパス及び医学部にキャンパスFD委員会及び医学部FD委員会（以下「FD委員会」という。）を置き、統括委員会がこれを統括する。

3 この規定において「委員会」とは、統括委員会及びFD委員会を指す。

(目的及び責務)

第2条 委員会は、本学の定める教学の基本方針にしたがい、教育法の改善及び教員の資質の向上などFD（ファカルティ・ディベロプメント）に関して討議を行い、より質の高い教育方法の推進を図るものとする。

2 委員会で協議された内容については、常任理事会、経営会議及び管理運営委員会に適宜報告するものとする。

(統括委員会の構成)

第3条 統括委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学務部長
- 二 各FD委員会の委員長
- 三 事務局長
- 四 人事にかかる事務責任者
- 五 教務にかかる事務責任者

2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(FD委員会の構成)

第4条 FD委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学長が指名する専任教員
- 二 学長が指名する者
- 三 理事長が指名する者

2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

2 FD委員会においては、委員の中から学長が推薦し、理事長が指名する。

3 統括委員会においては、学務部長をもって委員長とする。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員会の成立)

第6条 委員会は、過半数の委員の出席により成立する。

(委員以外の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務処理)

第8条 統括委員会の事務は東京事務部教務企画部が取り扱う。

2 FD委員会の事務は、各キャンパス及び医学部の教務事務担当部署が取り扱う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、常任理事会の承認事項とする。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。